

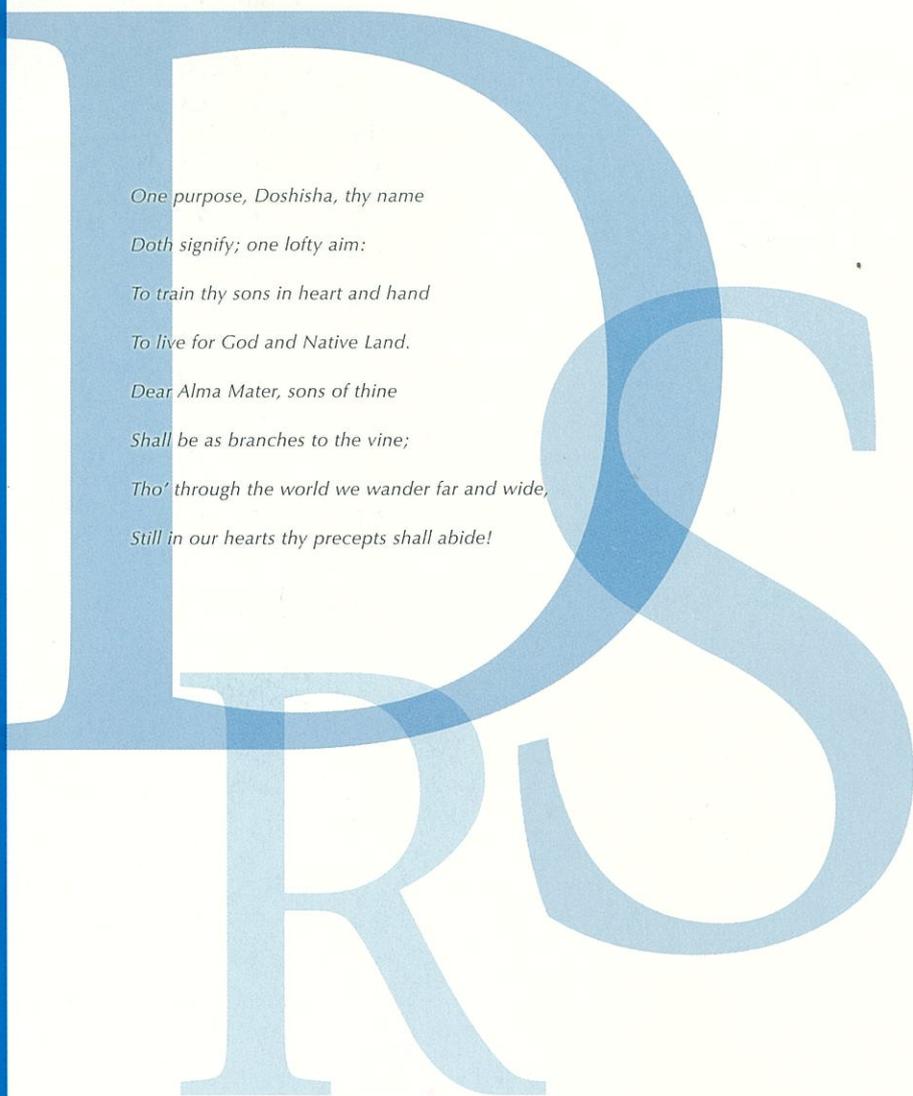
学校法人 同志社
事業報告書
2 0 1 3

「建学の精神」を現代に問い直す

The Doshisha Social Responsibility Report 2013



学校法人 同志社
<http://www.doshisha.ed.jp/>



One purpose, Doshisha, thy name

Doth signify; one lofty aim:

To train thy sons in heart and hand

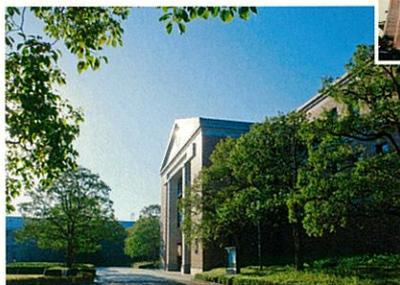
To live for God and Native Land.

Dear Alma Mater, sons of thine

Shall be as branches to the vine;

Tho' through the world we wander far and wide,

Still in our hearts thy precepts shall abide!



学校法人同志社は現在、約4万2,000名の学生・生徒・児童・園児が学ぶ「一大総合学園」に成長し、新たな飛躍に向かって進化を続けています。1875年の創立以来、多くの困難を乗り越えて教育・研究活動を続けてこられたのは、保護者や卒業生をはじめ、地域や行政機関、企業、一般市民の方々からの温かいご支援・ご指導があったからこそと、感謝しております。

2013年は、同志社大学に14番目の学部となるグローバル地域文化学部が開設されました。さらには新島襄の妻・八重の生涯を描いたNHK大河ドラマ「八重の桜」が放送され、同志社を広く知っていただく機会となりました。14年は新島襄の海外渡航150周年に当たり、同志社にとって重要な年です。

13年11月29日に創立138周年を迎えた学校法人同志社は今後も教育・研究に関する改革を推し進め、健全な学校法人運営を維持するため、すべてのステークホルダー（利害関係者）の皆様に対して、情報公開を徹底してまいります。

本報告書によって、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが、より一層促進されることを心より願っております。

2014年5月24日
学校法人 同志社

本報告書の対象範囲
同志社法人部、ならびに幼稚園から大学までの各校。数値・金額にはそれぞれ対象範囲を付記しています。

本報告書の対象期間
2013年4月1日～2014年3月31日
(一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています。)

学校法人 同志社
事業報告書 2013

2014年5月24日発行
発行：学校法人 同志社
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
URL <http://www.doshisha.ed.jp/>

無断転載を禁止します。
All Rights Reserved.
Printed in Japan ©The Doshisha
The Doshisha Social Responsibility Report 2013

お問い合わせは
学校法人同志社 法人部法人事務室
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-3006
FAX 075-251-4980
E-MAIL ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

Contents

目次

教育理念	3
法人内各学校	3
■ 大谷 實 総長からのメッセージ	4
「知・徳・体」を体得できる 一貫教育のさらなる推進に努めます	
■ 水谷 誠 理事長からのメッセージ	5
安定した財政基盤を生かして 良心的に行動する人物を育てます	
■ 同志社大学長、グローバル地域文化学部長対談	6
国際的な諸問題を解決に導く「グローバル社会の良心」を育む —グローバル地域文化学部を開設	
同志社大学 村田晃嗣学長 同志社大学 高木繁光グローバル地域文化学部長	
■ ハイライト① 教育	8
文理融合の実践知を身に付ける博士課程や新留学制度 継続して「国際主義」を推進する教育を実践	
■ ハイライト② 研究	9
健康増進につながる革新的な研究成果を達成 研究推進体制の新たな枠組みを構築	
■ ハイライト③ 卒業生、在学生の保護者への取り組み	10
八重ゆかりの地・会津若松で「同志社女子大学の集い」を開催	
■ ハイライト④ 地域社会への取り組み	10
4名の家元による講座を開催、日本の伝統文化を知る機会を提供	
■ ハイライト⑤ 国際化推進への取り組み	10
グローバル30に続いてGo Global Japanにも採択	
■ ハイライト⑥ 環境問題への取り組み	11
第6回「世界学生環境サミット」を開催。参加国・人数が過去最大に	
■ ハイライト⑦ 寄付事業への取り組み	11
次代のリーダーを育成するSGLIに法人内中高の生徒を派遣	
■ 事業の概要	12
同志社大学	12
同志社女子大学	16
同志社中学校・高等学校	18
同志社香里中学校・高等学校	19
同志社女子中学校・高等学校	20
同志社国際中学校・高等学校	21
同志社小学校	22
同志社国際学院	23
同志社幼稚園	24
■ 【特集1】良心教育に関するシンポジウム	25
良心に溢れた人物を育てる同志社教育の「原点」を考える	
■ 【特集2】「八重の桜」関連プロジェクト	26
復興につながるプロジェクトを大河ドラマ放送と連携して実施	
■ 【特集3】グラフで見る同志社	28
■ 財務の概要	30
概況	30
資金収支計算書	30
消費収支計算書	32
事業別決算	34
貸借対照表	34
財務比率	36
学校別の状況	37
2014年度の事業計画	38
■ 法人の概要	39
理事、監事、評議員、沿革	

教育理念

同志社は、1875(明治8)年、新島襄によって創立された、わが国有数のキリスト教主義の学園です。創立当時の生徒はわずか8名でしたが、現在は同志社大学、同志社女子大学のほか、4つの高等学校、4つの中学校、小学校、国際学院と幼稚園を含む総合学園となり、学生・生徒・児童・園児は約4万2,000名、教職員は1,900名を超えています。また30万名を超える卒業生は、経済・政治・宗教・教育・社会事業など多方面で社会のために活躍しています。

新島は同志社の教育目的を1888(明治21)年、全国に発表した「同志社大

学設立の旨意」の中で、次のように述べています。

「(同志社設立の)目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず(中略)、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂る良心を手腕に運用するの人物を出さんことを勉めたりき」(*)

新島は、知育、体育だけでなく徳育を含めた「知・徳・体」の調和ある教育の実践を理想としていました。教育を通して生徒・学生が、型にはまらず独立心と才能あふれる^{できとうふ}個儻不羈なる人物として、「自治自立の人民」「一国の良

心」となることを究極の目的としました。

同志社では新島の建学の精神を受け継ぎ、キリスト教主義、自由主義、国際主義を教育の重要な柱としています。また、生徒・学生の個性や彼らの自発性を尊重し、全人教育を通して広い視野から現状分析と将来展望を持って行動することのできる人間、自らの良心に従って生きる人間、新島の言う「自治自立の人民」の育成をめざします。グローバル化が進む21世紀では、ますます新島の建学の理念が、そして同志社教育が重要性を増すことでしょう。

(*)「同志社大学設立の旨意」『新島襄全集』より

法人内各学校



(2014年3月現在)



おお や みのる
大谷 實
総長からのメッセージ

Message from
Chancellor

「知・徳・体」を体得できる 一貫教育のさらなる推進に努めます

—— 2014年は同志社創立者・新島襄の海外渡航150周年に当たります。

新島襄が函館の地から国禁を犯して密出国し、米国に向かって渡航したのは、今から150年前の1864年（元治元年）6月14日のことです。新島襄が「志」を行動に移したこの日が、キリスト教的な世界観を涵養し、自らの手で日本に私学を設立することを決意するに至る米国での生活の出発点になりました。海外渡航150周年という記念すべき年に改めて新島の志を思いますと、誠に感慨深いものがあります。

—— 13年には、新島襄の妻・八重を主人公にしたNHK大河ドラマ「八重の桜」が放送されました。

大河ドラマの放送を通じて、同志社設立にかけた新島襄の信念や建学の精神を全国の皆様に具体的に知ってもらえたことは、総長として願ってもない大きな喜びです。

東日本大震災を機に、「これまでの物質文明、経済優先の時代から、心の時代にパラダイムシフトしなければならない」と言われています。ここで言う「心の時代」とは、自らの人生をどう

生きるかという意志を、一人ひとりが明確に自覚することだと思います。

今こそ私たちには、新島襄・八重が体現した「自ら立ち、自ら治める」人間として生きる覚悟が必要なのではないでしょうか。今回の大河ドラマは、同志社建学の理念である「自由主義（自治自立主義）」に、全国の皆様がいちを馳せる機会になったのではないかと期待しています。

東日本大震災からの復興、東北地方の医師不足の解消といった地元の要請を踏まえて文部科学省は、「東北地方で1校に限り、医学部新設を認める」という基本方針を示しています。13年8月に「医学部（医科大学）を展望する部会」を理事会の下に設置した同志社は、医学校の設立という新島の描いた夢の実現に向けて、真剣に検討し続けてきました。しかし、市場性及び経営上の課題、並びに教職員の人材確保といった課題を考慮すると、今回の構想には、設置申請を提案する状況にはないと判断しました。ただし、同志社における医学教育の重要性は変わるものではなく、今後も引き続き医学教育の可能性

について、検討を続ける所存です。

—— 総長就任から13年間、「一貫教育体制の強化」を推進されています。

同志社には、幼稚園から大学院までの一貫教育体制が整っています。01年の総長就任当時から、「一貫教育体制の強みを生かさなければ、さらなる発展は望めないのではないか」と考え、法人内各学校の連携・交流を促進し、一貫教育体制のメリットを生かせるプログラムを実行してきました。例えば「合同学校説明会」や「同志社研修・交流会」は、一貫教育を推進するための事業として定着しています。

今後は、立石ファンドを活用した法人内中学校・高等学校における国際化推進プログラムなどをさらに推進し、かつて世間で評されてきた「英語の同志社」の復活を目指したいと考えています。一方、法人内各学校間のスポーツ交流も盛んになっています。教学の統括者である総長として、「知・徳・体」を体得できる教育を目指して、引き続き新たな事業に積極的に取り組み、一貫教育のさらなる推進と、より一層の充実に尽力してまいります。



みず たに まこと
水谷 誠
理事長からのメッセージ

*Message from
Chairperson*

安定した財政基盤を生かして 良心的に行動する人物を育てます

— 2013年に教学体制の再編が終ってから1年が経ちました。

同志社大学は13年4月、人文・社会系8学部・10研究科を今出川校地に集約しました。その結果、学ぶ場所が学年によって京田辺校地から今出川校地になる「2校地体制」から、この領域のすべての学年が今出川校地で学ぶ「1校地体制」になりました。

一方、京田辺校地は理工系と文理融合系を軸に言語系を含めた6学部・6研究科体制となり、「Creative Hill」と名付けられたキャンパスにふさわしく、複合的教育の拠点、国際的先端研究の拠点として体制を整えています。

同志社女子大学は、わが国有数の総合女子大学としての地歩を堅固なものにしていますが、15年4月には、6番目の新学部「看護学部」を京田辺校地に設置し、薬学部とともに医療系の教育研究をさらに充実させる予定です。

同志社は、両大学に加えて、4つの中学校・高等学校、2つの小学校、インターナショナル・スクール、幼稚園、合わせて14の学校を擁する総合学園です。これらの諸学校は、個性的なそれ

ぞれの校風の中で、建学の精神であるキリスト教を土台にした自由・自治・自立の精神を大切にし、「良心が全身に充満した」人物の養成に努めています。— 今後の取り組みについて、具体的にお聞かせください。

同志社女子大学は17年度までに今出川キャンパスの大規模な整備計画を進めています。同志社女子中学校・高等学校も16年度までのキャンパス整備計画が動いています。同志社国際中学校・高等学校では、同志社国際学院初等部の卒業生を15年度から受け入れるにあたり、ハード面を含めた教育環境の整備を進めています。

現在、私立学校は、少子化や国・公立学校の改革などによって、また、グローバル化への対応、産学官の連携、地域貢献といった多様な課題の中で熾烈な競争環境に置かれています。このような生き残りをかけた競争の中で、同志社がさらに発展を遂げるために、キャンパスの整備、施設の整備などハード面への投資を続けていくとともに、教育力の実質的な強化を図るためにソフト面をさらに充実していかな

ばなりません。具体的には、幼稚園から大学院までの一貫教育体制の強みを生かして、園児や児童、生徒、学生のそれぞれに対して、成長の度合いや個性、発達段階に対応しつつ、良心的な生き方や行動が血となり肉となっていくように努めていくことが大切です。また、教育内容の常なる点検や、教育事業に携わる教職員の意欲をさらに高める工夫も必要でしょう。

— 学園のより一層の発展のためには、財政の安定が欠かせません。

同志社の財政基盤は健全かつ安定した状態で推移しています。今出川校地の大規模な環境整備を昨年まで進めてきましたが、金融機関からの借入れなしに自前の資金でそれを果たすことができている。この財政上の安定は、同志社の発展の基盤であることを自覚し、これをさらに強固なものとする。今後、収入構造の多様化を一層進め、外部資金の獲得を心がけるとともに、無駄を省いた効率的な運営を心がけていく所存です。

(良心碑前にて)

国際的な諸問題を解決に導く 「グローバル社会の良心」を育む —グローバル地域文化学部を開設



同志社大学
むら た こう し
村田晃嗣 学長

同志社大学
たか き しげ みつ
高木繁光 グローバル地域文化学部長

—同志社大学で14番目の学部となるグローバル地域文化学部が、2013年4月に開設されました。

村田 冷戦の終焉、世界規模の金融再編、インターネットの普及による情報環境の変化など、ここ20年間にグローバル化は加速しています。しかし、グローバル化が私たちの社会や生活に及ぼす影響は、すべてが明らかになっているとは言えません。それだけに、私たちはグローバル化の構造について学問的に探究する必要があります。

世界の各地域では、グローバル化と地域文化の固有性とのせめぎ合いが起こっています。グローバル化による摩擦や衝突が地域で続発しており、その解決が重要な課題になっているのです。グローバル化でもたらされた問題を解決するには、グローバルな視点に立つと同時に、固有な地域文化に目を向けて考えなければなりません。

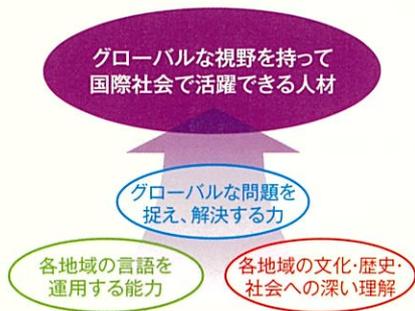
これまでの地域研究は、ヨーロッパ、

アジアなど個別の地域に注目して、その固有性のみを議論する傾向にありました。一方で、国際関係の研究はグローバルな視点で何もかも俯瞰的な枠組みで考え、個別性を重視しているとは言えませんでした。グローバル地域文化学部では、世界を俯瞰的にとらえるのと同時に、諸地域の文化の固有性を理解する能力を備えた人物を育成します。—高木先生はグローバル地域文化学部の学部長に就任しました。教育内容の特徴について教えてください。

高木 グローバル地域文化学部に入学した学生は、「ヨーロッパコース」「アジア・太平洋コース」「アメリカコース」のいずれかを選択して、それぞれの地域の固有の歴史や文化、社会を学びます。次に学生は、英語圏、フランス語圏、中国語圏といった具合に視野を広げ、地域を横断して見られる事象や取り組むべき問題(グローバル・イシュー)を学んでいきます。

ヨーロッパ、アジア・太平洋、アメリカ地域は、それぞれが独自の文化と社会を形成するとともに、互いに影響を及ぼしながら発展してきました。ヨーロッパについては宗教、移民、植民地主義、アジア・太平洋については、文化衝突、歴史理解、環境・資源、アメリカは人種・民族、ジェンダーなどの知見が求められるでしょう。さらに、グローバル化の中で「この地域で、なぜこの課題を抱えることになったのか」を学び、課題の解決方法を考えていくのです。

学生は、地域を学ぶ重要なツールとして、世界共用語の英語とともに、さらにもう一つの外国語の習得に努めます。地域の言語を学ぶことによって、グローバル化で地域の固有性がどのような変化を求められているか、あるいは変化に抵抗しているかについて理解を深めるのです。英語と、もう一つの外国語、さらには日本語という母語の



グローバル地域文化学部の教育目的

三つの言語を使いこなせる人材を育てたいと考えています。

学生は、在学中に1回はサマープログラム、スプリングプログラム、セメスタープログラムなどの海外研修に参加することを必修としています。1カ月でも半年でもよいから、海外の大学に留学することで外国語の生活環境の中で自分を置き、違う民族の人たちと接することを体験してほしいと考えます。
——グローバル化によって多様性についての理解が求められています。

村田 学生は、世界の地域文化を学ぶと同時に、日本社会のグローバル化に目を向けていただきたい。外国の文化を学びながら、日本の文化的な多様性に対する感受性を磨いてほしいのです。多様性に対する感受性は、まず母国で養われるべきものです。外国の文化や言語を学べば、多様性を身に付けたグローバル人材になれるわけではありません。グローバル地域文化学部は、海外との比較の中で国内の多様性を学ぶという意味で優れた教育プログラムを用意しています。

関西地域には、京都もあれば大阪もあり、さらに奈良も神戸もある。小さな拠点がいくつも存在しているのです。グローバル地域文化学部のキャンパスは、京都の今出川校地に置いています。大阪で育った人は、電車に乗ってわずか40分で着く京都にはこれだけ違う文化があることが分かるでしょう。さらに、就職して東京に赴任したら、日本の三つの違う文化を経験することになります。国内での異文化経験は、海外での異文化を知るための重要なト

グローバル地域文化論	さまざまな地域を専門にする教員によるオムニバス講義で地域を横断的に捉えるための一助になります。
グローバル・イシュー	「人間の安全保障」「異文化間摩擦」「社会開発」など、複数地域にまたがる課題を学び、地域横断的でグローバルな視野を養う科目群。
スタディ・アブロード	学生それぞれが目的に応じて研究対象地域に渡航し、フィールドワークを実施します。年次や期間は、研究目的により異なります。
地域文化の形成	各地域の文化と社会の歴史的な形成過程を理解するための科目群。例／ヨーロッパ地域文化形成特論(イギリス文化の形成)
地域の課題	各地域が直面する現代的課題を学ぶための科目群。例／アジア・太平洋の課題(歴史認識論)
地域文化の多様性	各地域の言語的、文化的特質と多様性を学ぶための科目群。例／南北アメリカ地域文化論(ラテンアメリカマイノリティの文化)

特徴的な科目群

レーニングになるはずで。

高木 私は学生に対して、自分が選択したコースを一生懸命に勉強するのはもちろんのこと、同時に他のコースの人との交友を広げてほしいと言っています。ヨーロッパを選んだ学生は、ヨーロッパのみに興味を持つのではなく、アジア・太平洋やアメリカのコースの人と議論をして、意見の交換をしてほしいのです。それぞれのコースの学生が学んだことを互いに交換してこそ、真の意味でのグローバルな視点を持つのです。

村田 同志社大学には、人文科学、社会科学、自然科学の教員が、幅広い教養科目を提供しています。グローバル地域文化学部の学生は、学部・学科の枠を越えて学んでいただきたい。「自分は人文学的なアプローチで地域を見ているが、政治学や金融の勉強をしてみよう」といった具合に、学部で勉強したことを複眼化できる総合力を育てほしいと思います。

——グローバル地域文化学部を卒業後、どのような進路が考えられますか。

高木 グローバル人材の活躍の場は、広がっています。国際連合をはじめとする国際機関、国際交流をしているNPO(非営利組織)やNGO(非政府組織)で働いたり、国内であれば外国人を含むコミュニティの形成に貢献するような仕事に就く、あるいは中国・アジアに進出する企業に就職するなどの道が想定されます。大学院に進学して、研究を究めるといった道もあるでしょう。中学校(社会)や高等学校(地理歴史)の教員免許を取得することも可能です。



グローバル化が進み、地域の固有性が崩れつつある中で、人と人との新しい共棲、地域と人との共棲を考えていかななくてはなりません。海外で紛争やテロに苦しんでいる人がいたら、その痛みで共鳴できる「心のグローバル化」を教員も学生も育てていきたいと考えています。

創立者・新島襄は「一国の良心」となるような人を育てると語りました。私たちは「グローバル社会の良心」となる人を輩出していきたいと考えています。

村田 社会ではグローバル人材の育成が求められています。グローバル人材を英語で何と言うのか調べたところ、「グローバル・タレント」という表現があることを知りました。

新島襄はグローバル・タレントの日本人第1号だったと思うのです。新島が米国の大学を卒業した頃は、日本に大学はありませんでした。新島は日本人最初の大学卒業生であり、最も高学歴な人だったのです。その新島が選んだ道は、高級官僚でも政治家でもなく、京都で基督教の学校を作ることでした。そこに彼のユニークさがあり、グローバル・タレントであると同時に、グローバルに通用する人物(グローバル・キャラクター)だったわけです。

国家公務員試験の合格者数や上場企業への就職実績を求めるとすれば、グローバル人材を輩出するだけの学校になってしまいます。私たちはそういう尺度では計りきれないグローバル・タレントにしてグローバル・キャラクターである人たちを育てていきたいと思っています。

ハイライト 社会の要請に応える取り組み

教育・研究、保護者・地域社会・国際連携・環境への取り組み、寄付事業

ハイライト ① 教育

文理融合の実践知を身に付ける博士課程や新留学制度 継続して「国際主義」を推進する教育を实践

グローバル・リソース・マネジメント

文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」に採択（2012年度）された同志社大学の「グローバル・リソース・マネジメント」は、13年度に本格的な活動を開始しました。

本プログラムでは大学院グローバル・スタディーズ研究科と理工学研究科が基幹研究科となって、人間生存の基盤である「資源・エネルギー工学、インフラ科学」と「地球規模の現代的課題群にかかわる人文・社会科学」を融合。博士前期・後期課程を一貫した「文理融合型」の大学院教育プログラムです。グローバル・スタディーズ研究科、理工学研究科の学生のほか、神学、政策科学、社会学、社会福祉学などを専門領域とする研究科・専攻の学生も履修することができます。

プログラムを履修する学生には、自然科学分野での最適化問題を社会科学の側面も含めて俯瞰し、国家資源や社会インフラが「人間の創出するシステム」であることの認識を深め、文理が融合した実践知を習得してもらいます。リソース・マネジメントの本質は、天然資源や人的資源・社会関連資本を

適切かつ公正に管理・運用することで、共通リソースとしてのインフラストラクチャーを、持続可能な発展と人々の平和と安寧のために構築・改善していくことにあります。本プログラムでは、現在の困難を解決し、将来に生じ得る問題を事前に察知して対策を講じられる能力を兼ね備えた、博士学位を有する高度専門職業人を養成します。

グローバル・イシューを解決する良心教育

本プログラムで養成しようとするリーダーは、いわゆる「エリート型」のリーダーではありません。創立者新島襄の「一国の良心とも謂（い）ふ可（べ）き人々の養成」という理念を現代社会に適用し、宗教や文化の相違を十分に理解、配慮でき、新興国や最困難国・地域で、地域の人々と同じ目線で、ともに汗を流して問題を解決できるグローバル・リーダーです。

例えば、最困難国・地域で国づくり、社会形成に貢献しようとする技術者には、科学技術の知識を有しているだけでなく、それぞれの国や地域に固有の文化や宗教、習慣や生活様式の理解が必要です。グローバル・イシュー（地

球的規模での解決が必要な問題）の解決に貢献しようとする社会事業家には、文化や宗教の理解にとどまらず、それらの地域の社会インフラ改善・改良のための技術についての基礎的知識を持つことが求められます。

同志社大学は、長年にわたって蓄積してきた人文・社会科学と自然科学の知の体系を統合した「文理融合型」のプログラムにより、強靱な精神と高度な倫理観を持ってグローバルに活躍する人材の養成を目指します。

国際感覚豊かな人物を育成する留学制度

同志社女子大学では、海外研修や日本語指導実習などの短期のプログラムから、正規科目の履修を目的とした中・長期プログラム、英語学習・留学支援などの多彩なプログラムが用意されています。その中で13年度から導入されたのが「Semester 語学留学」制度です。このプログラムは、学生の英語の理解力と表現力を高め、現地での生活を通して両国相互の社会、文化、習慣などに対する理解を持つ国際感覚豊かな人物の育成を目的としています。

期間は秋学期の1学期間で、留学先は米国のメリルハースト大学。オレゴン州メリルハーストにあるカトリック系の私立大学で、この付属英語学校において語学研修やサービス・ラーニングを受講します。対象は、全学部の1、2年次生です。参加者には大学から補助金を支給します。

次年度からは、派遣先にカナダの大学を追加したり、春学期の派遣を可能にしたりするなど、参加希望学生のニーズに合わせてプログラムの拡大を図る予定です。



グローバル・リソース・マネジメントが扱う領域

健康増進につながる革新的な研究成果を達成 研究推進体制の新たな枠組みを構築

同志社大学と同志社女子大学では社会の要請に応える研究を続けています。2013年は健康増進につながる研究成果がありました。

アルツハイマー病治療につながる成果

同志社大学大学院生命医学研究科の舟本聡准教授と大学院脳科学研究科の井原康夫教授らは、アルツハイマー病の原因と考えられるアミロイドβタンパク質を産生する酵素γセクレターゼの特性を解明し、アミロイドβタンパク質の生成を抑制する新しい方法を開発しました。

舟本准教授らは、まず酵素γセクレターゼがタンパク質C99の先端部分を捕らえて切断することにより、アミロイドβタンパク質を生成することを明らかにしました。さらにC99結合ペプチドがアミロイドβタンパク質の生成を特異的に抑制することを実験的に証明し、このC99結合ペプチドがC99自体の生成も特異的に抑制することが分かりました。

この研究成果は、副作用の少ないアルツハイマー病予防や治療に役立つことが期待されます。さらに、酵素が切断するタンパク質（基質）に着目した創薬手法は、がんなどほかの疾患にも展開できる可能性を持っています。

本研究は、ペプチドリーム株式会社の佐々木亨主任研究員と共同で実施され、同志社大学の西川喜代孝教授、高橋美帆助教らの協力も得ました。

研究成果は、13年10月に英国の科学誌『Nature Communications』のオンライン速報版で公開されました。

URAセンター設置で研究推進体制強化

こういった優れた研究業績を持続的に生み出し、国際的な評価を確固たるものとするためには、研究者が研究活動そのものに専念できるよう、大学として研究マネジメントを推進する体制づくりが欠かせません。

同志社大学では13年秋に、研究活動のより一層の充実・発展を目指し、国や他大学の動向に注視しつつも「私学同志社」に最もふさわしい研究開発推進・支援体制を構築すべく、リエゾンオフィスや知的財産センターに加え、新たにリサーチ・アドミニストレーションセンター(URAセンター)を設置しました。URAセンターでは、リサーチ・アドミニストレーター(URA)がそれぞれの専門性を生かした「チーム」による活動を進め、従来からの研究単位である学部・研究科や研究センター等の枠を超えて、全学的な研究プロジェクトの開発・運営支援を推進します。

URAセンターの事業内容は、大きくは全学的な研究戦略策定に関する事項と個別の研究プロジェクトに係る申請から進捗管理、成果発信といった一連の活動支援に大別されますが、その対象は、理工系及び生命系を中心としつつも文理融合、人社系を含めた全ての研究分野にまたがります。URAセンターが大学の研究推進の核となり、研究者個人の努力の蓄積が大学としての研究力向上につながることを目指していきます。

オキシピナタニンが世界初の特許

同志社女子大学でも革新的な研究成果が生まれました。薬学部の小西天二教授(現・特別任用教授)は11年、琉球大学、株式会社クレイ沖縄ほか2社と共同研究を進め、沖縄野菜クワンソウから、高い睡眠誘発効果が認められるオキシピナタニンの安定的大量抽出に世界で初めて成功しました。そのオキシピナタニンが、13年6月5日に世界で初めて「睡眠改善剤」として中国で特許を取得しました。続いて8月23日に日本で特許を取得し、さらにほかの世界主要国38カ国で「特許査定」を受けました。オキシピナタニンは現代人の睡眠障害のリスク低減に役立つと期待されています。



2013年10月10日のNHKの取材に対応する舟本准教授

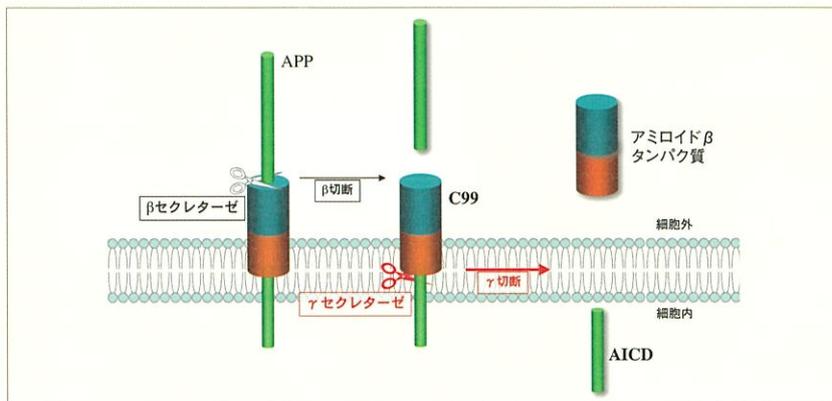


図1 アミロイドβタンパク質は2段階の切断により産生される

八重ゆかりの地・会津若松で「同志社女子大学の集い」を開催

「同志社大学キャンパスフェスタ」は、同志社大学が卒業生との交流、在学生の保護者、受験生への大学紹介を目的に、毎年度開催しているイベントです。2013年度は7都市で開催し、学長による大学紹介、講演会、キャリア支援や入試に関する説明など、豊富なプログラムで実施しました(表)。

同志社女子大学では毎年度全国5カ所で「同志社女子大学の集い」を開催

しています。13年度はそのうち1回を特別企画として、新島八重の故郷・会津若松をめぐる1泊2日の旅「同志社女子大学の集い in 会津若松」を実施し、卒業生、在学生の保護者57名が参加しました。1日目は福島県立博物館で、「八重が結ぶ会津と京都」をテーマに講演会を開催。第1部では吉海直人教授による、「八重と会津と板かるた」をテーマにした基調講演、第2部では

湯田祥子若松城天守閣郷土博物館学芸員、古山智行福島県立博物館主任学芸員と吉海教授のトークセッションを行いました。講演会には室井照平会津若松市長をはじめ、会津若松市民の方などを含め187名にご来聴いただきました。2日目は会津の歴史に触れるため、市内を見学しました。

また、13年7月には今出川キャンパスで「同志社女子大学 寮生の集い」を開催しました。キャンパス整備計画の一環として、かつて寮であった新心館の建替工事が行われるのをきっかけに、本学の寮で学生生活を過ごされた卒業生に学生時代の寮生活を懐かしんでもらおうと、初めて開催しました。参加者は約440名で、久しぶりの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。

同志社大学キャンパスフェスタ

開催日	場所	講演内容
2013年7月15日	岐阜県 ホテルグランヴェール岐阜	「近代女性のさきがけ 新島八重の真実」 福本武久氏(作家)
2013年7月20日	福島県 ホテルハマツ	「京都・同志社・襄と八重」 保阪正康氏(作家・評論家・日本近現代史研究者)
2013年10月5日	東京都 秋葉原UDX	「新島八重と明治女性たち—ハンサムに生きる—」 佐伯順子(社会学部教授)、 「多国籍企業の世界—企業は地球市民たりうるか—」 上田慧(商学部教授)
2013年10月12日	大分県 トキハ会館	「八重の桜・襄の梅—大河ドラマのウラ・オモテ—」 本井康博(神学部元教授)
2013年11月4日	高知県 ザ クラウンパレス新阪急高知	「八重の桜・襄の梅—大河ドラマのウラ・オモテ—」 本井康博(神学部元教授)
2013年11月17日	秋田県 パーティーギャラリーイヤタカ	「八重の桜」が描く「女子力」—ドラマが社会に問うもの— 佐伯順子(社会学部教授)
2013年11月24日	山口県 ホテルニュータナカ	「八重と覚馬」 露口卓也(文学部教授)

4名の家元による講座を開催、日本の伝統文化を知る機会を提供

同志社大学は朝日新聞社と共催で、「同志社大学京都家元講座」をJPタワーホール&カンファレンス(東京都千代田区)で開催しました。

京都と本学にゆかりの深い伝統文化の家元4名を講師に迎えて、歴史の中で蓄積された日本の豊かな文化の真髄を、京都の魅力も交えながらお話しいただきました(表)。

同志社女子大学では、2013年12月8

日に栄光館ファウラーチャペルにて、同志社女子大学シンポジウムを開催。第1部の基調講演では眞鍋政義氏(全日本女子バレーボールチーム監督)に、「前向き力が生む世界へのチャレンジ」

と題してお話しいただきました。第2部では、眞鍋氏、野田一江氏(箕面自由学園高等学校チアリーディング部専任コーチ、本学卒業生)らをパネリストに迎えたディスカッションを行いました。

同志社大学京都家元講座

	開催日	テーマ	講師
第1回	2013年11月26日	能	金剛流二十六世宗家 金剛永謹氏
第2回	2013年12月3日	京舞	井上流五世家元 井上八千代氏
第3回	2014年2月3日	華道	華道家元池坊次期家元 池坊由紀氏
第4回	2014年2月18日	茶道	裏千家十六世家元 千宗室氏



京舞の井上流五世家元・井上八千代氏

グローバル30に続いてGo Global Japanにも採択

同志社大学は、2009年に文部科学省の「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」に採択され、英語による学位取得可能なプログラムの構築、留学生受入体制の整備を進めてきました。また12年には、良心と進取の気性に溢れる同志社グロー

バル人材養成のための実践的取組が、引き続き文部科学省の「グローバル人材育成推進事業(Go Global Japan)」の全学推進型に採択されました。

Go Global Japanでは、実際の留学経験を通じてグローバルに通用する能力を身に付ける「留学型」と、国内にい

ながらグローバル人材となり得るカリキュラムを履修する「国内型」の2つがあります。これらからなる教育プログラムにより、高い語学能力や国際感覚を身に付け、グローバルな舞台に積極的に挑戦し、さらに活躍できる人材の育成を目指しています。

ハイライト 6 環境問題への取り組み

第6回「世界学生環境サミット」を開催。参加国・人数が過去最大に

同志社大学は環境保全活動にも積極的に取り組んでいます。

本学が先導して毎年実施する「世界学生環境サミット」の第6回が9月16日から19日の4日間、ドイツのロイファナ大学で開催されました。

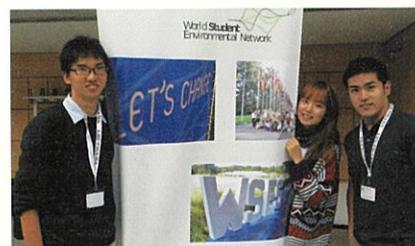
世界中からの大学生が環境問題について英語で議論する本サミットは、本学の学生団体である「同志社エコプロジェクト」(DEP:Doshisha Eco Project)のメンバーが考案し、それぞれの立場の学生が協力して第1回大会を2008年6月に同志社大学で開催しました。その後毎年、世界各国で開催され、13年の第6

回は7つの大陸の25カ国から40大学、74名が参加し、本学からは3名が参加しました。世界全体の環境意識が高まる中、開催されるごとに規模が拡大し、参加者や参加校が毎年増加しています。

本サミットでは、環境にかかわりの深い著名人の講演やグループワークによる議論の場が設定されました。「世界学生環境サミット」に集う学生は、国の利害や社会のしがらみにもしぼられない自由な立場と地球の未来を担う若い世代という有利な立場にあります。自分たちの学生時代に与えられた幸運な機会ととらえて、自分自身の未来の

ために極めて貴重な経験となるのです。議論は、連日夜遅くまで続き、互いに熱く意見を交換し合いました。

来年度の同サミットは6月に南アフリカ、ケープタウンのステレンボッシュ大学で開催される予定です。



世界学生環境サミットに参加した同志社大学の学生3名

ハイライト 7 寄付事業への取り組み

次代のリーダーを育成するSGLIに法人内中高の生徒を派遣

同志社法人内の中学校・高等学校では、2011年度より立石信雄氏からの寄付金(立石ファンド)を基に特色ある国際主義教育を展開しています。そのプログラムの一環として、2013年からStudent Global Leadership Institute (SGLI)に、各高校から1名、計4名の生徒を派遣しています。

SGLIは、米国ハワイ州ホノルル市にあり、バラク・オバマ大統領の出身校でもあるプナホウ・スクールでつくられた

プログラムで、世界規模で解決すべき課題を認識し、その解決に取り組む若いリーダーたちを育成することを目的としています。

そのため、毎年1つのテーマに沿って、夏にセッションを行い、創造性、問題解決能力、コミュニケーション能力、広い視野などを育む活動を行い、学んだことを持ち帰って、身近なところでのプロジェクトを行います。

13年度は7月22日～8月2日に実施

され、米国、英国、デンマーク、スウェーデン、ヨルダン、シンガポール、中国から参加者がありました。テーマは「FOOD」で、食文化、食の安全、食糧調達の問題を具体的に提起し、世界の食糧事情、食糧の分配、地産地消などについてのレクチャー、グループワーク、ディスカッション、フィールドワークなどを行い、リーダーとは何かについても考えました。14年度は、7月20日～8月2日に実施する予定です。

【自然災害に対する緊急措置】大雨や突風、台風、大雪の被災者を対象に学費減免

2012年に続き、13年も大きな自然災害が続きました。同志社大学は「東日本大震災被災受験生に対する入学検定料及び被災学生に対する学費減免措置」を継続するとともに、次の13年の大規模自然災害についても、在学生を対象に学費減免措置を実施しました。同志社女子大学も同様の措置を実施しました。

【融雪等に伴う地すべりの被害に伴う学費減免の実施】

【山形県】最上郡戸沢村

【大雨による被害に伴う学費減免の実施】

【山形県】長井市、南陽市、西村山郡大江町、西置賜郡白鷹町

【山口県】萩市、山口市、阿武郡阿武町

【島根県】鹿足郡津和野町

【秋田県】大館市、鹿角市、仙北市

【岩手県】岩手郡雫石町

【島根県】江津市

【突風等による被害に伴う学費減免の実施】

【埼玉県】越谷市、北葛飾郡松伏町

【台風18号による大雨等の被害に伴う学費減免の実施】

【埼玉県】熊谷市

【京都府】福知山市、舞鶴市

【台風24号及び26号に係る被害に伴う学費減免の実施】

【鹿児島県】大島郡与論町

【東京都】大島町

【千葉県】茂原市

【大雪による被害に伴う学費減免の実施】

【長野県】茅野市、北佐久郡軽井沢町、諏訪郡富士

見町、北佐久郡御代田町

【群馬県】安中市、藤岡市、多野郡上野村、多野郡神流町、甘楽郡下仁田町、甘楽郡南牧村、吾妻郡高山村、吾妻郡東吾妻町、沼田市

【山梨県】富士吉田市、南巨摩郡早川町、南都留郡山中湖村、南都留郡富士河口湖町、甲府市、都留市、大月市、韮崎市、笛吹市、上野原市、西八代郡市川三郷町、南巨摩郡身延町、南都留郡忍野村、南都留郡鳴沢村、北都留郡小菅村、北都留郡丹波山村、北杜市、甲州市、南都留郡西桂町、南アルプス市、南都留郡道志村

【埼玉県】秩父市、飯能市、秩父郡横瀬町、秩父郡皆野町、秩父郡長瀬町、秩父郡小鹿野町、児玉郡神川町

Doshisha University

同志社大学

建学の精神に基づき
世界の諸問題を解決する能力を養う



■ 創立	1875年
■ 所在地	〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601 TEL : 075-251-3110 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL : 0774-65-7010
■ URL	http://www.doshisha.ac.jp/

同志社大学は創立以来、「良心を手腕に運用する」という建学の精神に基づき、世界を舞台に活躍できる人材の育成に努めています。2013年度はグローバル・コミュニケーション学部につき「グローバル」を冠した新しい学部を設置。世界横断的な諸問題を的確に捉え、解決する能力を養うなど、個性豊かな人材を育成する教育目標を掲げ、様々な取り組みを実施しています。

国際舞台で活躍できる人材へ グローバル地域文化学部開設

教学面では、2013年4月、烏丸キャンパスに「グローバル地域文化学部」を開設しました。グローバル地域文化学部は、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカという三つの地域の文化・歴史・社会について体系的に理解を深めます。地域横断的な諸問題をグロー

バルな視点から分析することで、さまざまな文化や社会の諸相を多角的に把握する高度な専門知識を養い、21世紀の国際舞台で活躍できるグローバル人材の育成を目的とします。また、スポーツ健康科学部の入学定員を増員しました。これは現代生活における健康の増進やスポーツの社会的発展を求める声に応えたものです。

文系学部が今出川校地に移転 各キャンパスの位置づけ明確に

一方で、「今出川校地と京田辺校地における教学体制の再構築」に取り組んでいた同志社大学は13年度、大きな転機を迎えました。文学部、法学部、経済学部、商学部の1、2年次生を今出川校地に統合移転しました。この今出川校地整備事業のキャンパス整備完了により、全学部の学生は今出川、京田



同志社大学学長
むらた こうじ
村田 晃嗣

2013年度は15年ぶりに同志社大学の学長が交代しました。新任の私に十分な働きができたかどうかは疑問ですが、教職員、校友、保護者に支えられて、何とか1年が過ぎました。幸い、NHK大河ドラマ「八重の桜」で同志社が取り上げられ、校友の母校への関心が一層高まりました。一方で、朝日新聞社と協力して「同志社大学京都家元講座」を東京で開催し、全国的なブランド力の向上に努めました。

一般入試では、18歳人口が減少する中で、本学の受験生は3%増え、東京では2割増でした。学内のガバナンスの改革にも注力し、管理運営体制に関するワーキンググループの答申を受け、2014年度には学内の組織改革を大胆に進めたいと思っています。同時に、大学のグローバル化を積極的に進めるために、カリキュラム、学生支援、研究や職員研修など各分野で横断的に浸透させていく所存です。

辺それぞれのキャンパスで修学を完結できるようになりました。

今出川校地は「リベラル・アーツ型教養教育」「ゼミナールを中心とした専門教育を展開する文系学部の教育拠点」「専門職大学院や独立研究科等を中心とする高度専門職業人養成の拠点」「海外の一流大学が集積する国際キャンパス」として、京田辺校地は「理工系と文理融合学部が集積するキャンパス」「実験・演習、フィールドワークを重視する複合型教育拠点」「身体・生命、先端技術、情報に関する国際的先端研究拠点」と位置付け、各校地の特色を明確にして教育効果を高めます。

さまざまな教育プログラムで さらなるグローバル化を推進

教育研究面は、大学院教育における抜本的改革を支援する「博士課程教育

リーディングプログラム」の支援を受けて、博士前期・後期課程を一貫した文理融合プログラム「グローバル・リソース・マネジメント」を実施し、グローバル・リーダーの養成を目指しています。

教育理念の一つである「国際主義」をより一層推進するため、13年度で補助事業期間が終了する文部科学省の「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」を継続し、今後も留学生の受け入れや送り出しの促進に取り組みます。「グローバル人材育成推進事業」に関しても、「国内型」と「留学型」の二つの新たな教育プログラムを中心に、創立者である新島襄が目指した「良心教育」を礎として、「高い倫理観」と「幅広い教養」を兼ね備えた人物を養成するため、学部の協力を得ながら引き続き推進していきます。

日本の大学では最大級の ラーニング・コモンズを開設

今出川校地に新築した良心館と志高館のうち、良心館に新たな学習空間となるラーニング・コモンズを開設しました。情報を知識に、知識を創造に変えていく空間として期待しています。

ラーニング・コモンズでは、さまざまなヒト・モノ・コト・情報と出会い、それらを仲間とともに議論し展開していくことで、新しい学びの可能性を生み出していきます。2階は交流と相互啓発の場である「クリエイティブ・コモンズ」を、3階にはアカデミックスキルの育成の場である「リサーチ・コモンズ」をそれぞれ配置したラーニング・コモンズは延べ床面積約2,550平方メートルを誇り、日本の大学では最大級の空間となります。大規模なセミナーやイベント、デモンストレーションを行うスペースや、ポスターセッションやワークショップに対応したエリア、グループ学習や懇談ができるコーナーを設けており、多様な学習が展開できます。

専任教員による学習相談や、ライティングスキル、プレゼンテーション技法の指導などを受けることも可能で、新しい学びのためのハードとソフトの両面を兼ね備えています。とくに課題探求・解決型の学習を行うPBL教育の場といった、学生の主体的な学びの空間としての活用が期待されています。

学生支援の面では、今出川校地と京田辺校地の間に平日14便、土曜日9便の無料シャトルバスを導入しました。これにより、正課授業科目履修のための校地間移動や、課外活動、学生交流の促進などに役立つと考えています。

建設事業では、今出川校地弘風館、明德館、至誠館の耐震改修などを実施しました。京田辺校地はスポーツ健康

科学部定員増に伴う磐上館の増築を行ったほか、複合的研究施設および宗教教育施設の建設にも着手しました。

堅調な財政状況を維持 前年度を上回る志願者

14年度(14年4月)学部入学者の入試実績は、一般選抜入試の志願者が前年度よりも1,268人多い4万2,340人(前年度比3.0%の増加)、センター試験利用入試の志願者についても前年度より330人多い1万604人(同3.0%の増加)となりました。14年度の入学者数は入学定員を上回り、堅調な財政状況を維持しています。教学条件の向上には、安定した財政が不可欠で、今後も安定した大学運営を見込んでいます。

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数(2013年5月1日現在)

学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数
学部	60	62	240	296
神学部	60	62	240	296
文学部	670	756	2,680	3,098
社会学部	415	477	1,615	1,937
法学部	850	941	3,400	3,847
経済学部	850	935	3,400	3,891
商学部	850	863	3,400	3,744
政策学部	400	386	1,600	1,712
文化情報学部	280	259	1,120	1,236
理工学部	730	751	2,920	3,541
生命医科学部	240	274	960	1,150
スポーツ健康科学部	210	233	660	745
心理学部	150	183	600	683
グローバル・コミュニケーション学部	150	158	450	446
グローバル地域文化学部	180	196	180	196
合計	6,035	6,474	23,225	26,522
研究科				
神学研究科	25	21	55	81
文学研究科	79	41	173	131
社会学研究科	53	40	122	115
法学研究科	145	98	305	192
経済学研究科	55	18	115	40
商学研究科	70	19	145	49
総合政策科学研究科	95	70	235	233
文化情報学研究科	35	28	69	60
理工学研究科	345	355	656	759
生命医科学研究科	124	114	250	231
スポーツ健康科学研究科	11	11	22	27
心理学研究科	14	20	32	42
アメリカ研究科	—	—	—	7
グローバル・スタディーズ研究科	63	61	144	138
脳科学研究科	10	5	20	11
司法研究科	120	40	360	158
ビジネス研究科	70	48	140	103
合計	1,314	989	2,843	2,377
総計	7,349	7,463	26,068	28,899

教員数、職員数(2013年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
777	1,411	2,188	333	127	460	2,648

※理工学研究科には工学研究科を含む。

同志社(法人)2013年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教育・研究	中高の国際化推進プログラムの実施	立石信雄氏(オムロン株式会社特別顧問)からの寄付金により、特色ある国際主義教育を展開し、国際社会に貢献できる生徒の育成を目的としたプログラムを実施
	Punahou School: Student Global Leadership Institute プログラム	法人内4高校から各校1名、計4名が参加 期間:7月22日(月)~8月2日(金) 内容:講義、ディスカッション、フィールドワーク、アクティビティ
	第36回「新島講座」開催(10/2、9)	講師・講演:Mathias Habersack氏(ミュンヘン大学法学部教授)「欧州連合とEU市民意識」 公開セミナー:「EU法の発展と現状」
	第31回「東京新島講座」開催(10/5) (※「キャンパスフェスタ in 東京」と同時開催)	講師・講演:佐伯順子社会学部教授「新島八重と明治女性たち—ハンサムに生きる—」 講師・講演:上田慧商学部教授「多国籍企業の世界—企業は地球市民たうるか—」
	良心教育に関するシンポジウム(11/14)	同志社教育の原点である良心教育について、良心教育の現状と課題を考える
	第18回同志社国際主義教育講演会開催(1/22)	講師・講演:有馬頼底氏(京都仏教会理事長・臨済宗相国寺派管長)「禅の山河」
財政	格付けの更新	2013年5月、R&I(格付投資情報センター)が、発行体格付AA+(ダブルAプラス)方向性は安定的と格付維持(9年連続)を発表
	募金事業	ローム記念館プロジェクト・サポート募金
その他	ヌエバ・同志社交流会の実施	「和太鼓交歓会」—The WADAIKO Night—を実施。同志社4中学でホームステイプログラムに参加しているヌエバ生徒とそのホストファミリーを招き、ヌエバ生徒が日本の伝統文化に触れること目的として実施
	はるか桜植樹式	福島県から、「綾瀬はるか」さん命名の「はるか桜」の苗木を全国に先駆けて寄贈
	義捐金の贈呈	福島県の復興支援に対して、東日本大震災復興協力金2,400万円を福島県贈呈
	福島県との交流・連携	福島県から関西に避難されている方を対象に、新島八重ゆかりの地ツアーを実施(新島旧邸見学・大学キャンパスツアー 7月、12月計3回)、「東日本大震災・原発事故から3年—福島現場を考える」の写真展を開催
	木津川市との連携協力包括協定締結	2013年10月30日締結。「山城地域にある各学校(大学、国際学院)がそれぞれの特性を生かし、木津川市との連携協力を一層推進」
	医学部(医科大学)を展望する部会	調査チームと検討チームを設置
	講演会・シンポジウム「八重と真千家」(11/4)	基調講演:千玄室氏「新島八重刀自と茶道」 パネルディスカッション:「八重の生き方」
	第18回「国際交流に関するエッセイコンテスト」表彰	応募:日本語部門12点(大学生の部5点、高校生の部6点、中学生の部1点)、英語部門66点(大学生の部2点、高校生の部45点、中学生の部19点)、表彰:最優秀賞3名、優秀賞6名、佳作11名
	第171回「新島誕生誕記念会」開催(2/13)	新島研究論文賞:伊藤豊 新島研究功績賞:加藤拓 新島誕生誕記念懸賞論文表彰:最優秀賞2名、優秀賞4名、佳作5名
	第3回同志社「中学生・高校生英語大会」(2/16) —立石杯— Recitation & Speech Contest	中学生の部(Recitation Section)D部門11名・D部門2名、高校生の部(Speech Section)D部門9名・D部門4名の計26名が出場、最優秀賞1名、各部門1名に優秀賞、優良賞を表彰
	2013年度「同志社総長賞」表彰	個人14名と2団体(33名)
同志社合同学校説明会の実施	幼稚園から大学まで合同の学校説明会を大阪(6月23日)、京都(大学オープンキャンパスと同日8月4日)で開催	

同志社大学2013年度の実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	「グローバル地域文化学部」設置	入学定員:グローバル地域文化学部180名(ヨーロッパコース70名、アジア・太平洋コース60名、アメリカコース50名)
	学部・学科入学定員変更	入学定員変更:()は変更前、社会学部教育文化学部75名(60名)、スポーツ健康科学部210名(150名)
教職員採用	教員・職員	専任教員28名、任期付教員43名、専任職員19名
教育・研究	大学院博士課程教育リーディングプログラム【グローバル・リソース・マネジメント(GRM)】	連続講座「グローバル・リーダーシップ・フォーラム」(第1回6/8)、GRMオンサイト実習
	科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞	飛龍志津子(生命医科学部准教授) 業績名:「生物ソナー・コウモリの工学的応用に関する研究」
	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択	先端複合材料研究センター「ナノ繊維・粒子の最適制御技術を開発する新規複合材料機能の開発」、超音波医学研究センター「超音波を基軸とした新たな医療技術開発の拠点形成—ヒトにやさしい医療を目指して—」、創造経済研究センター「クリエイティブ・エコノミー発展のための基盤形成のための調査・研究」
	私立大学等改革総合支援事業の採択	タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上(大学教育質転換型)」、タイプ3「産業界など多様な主体、国内外の大学等と連携した教育研究(多様な連携型)」
	同志社大学リサーチアドミニストレーションセンター(URA)の設置	研究開発推進のマネジメントを統括的に、研究者がより一層研究活動そのものに専念できる環境を整備・構築し、本学の研究活動の充実と発展に寄与することを目的として研究開発推進機構の一組織として新たに立ち上げ
	独立行政法人日本学術振興会(JSPS)の「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」の採択	「朝鮮半島と日本を越境する植民地主義および冷戦の文化」が採択
	地域イノベーション戦略支援プログラム	京都の産・学・公・金で構成する京都科学技術イノベーション推進協議会が進める「京都次世代エネルギーシステム創造戦略」事業の展開
	独立行政法人科学技術振興機構(JST)の研究開発展開事業(スーパークラスタープログラム)	京都府、京都市、公益財団法人 京都高度技術研究所が提案した「クリーン・低環境負荷社会を実現する高効率エネルギー利用システムの構築」が採択され、本学は「高性能材料・デバイス研究開発グループ」に参画
	科学研究費助成事業	交付件数295件、交付金額6億9,000万円
	研究センターの開設	創造経済研究センター、アディボサイト&マッスルサイエンス研究センター、体力医学研究センター、(奄美・沖縄・琉球)研究センター、超音波医学研究センター、こころの科学研究センター
	寄付教育研究プロジェクトの開設(寄付講座)	「坂田記念ジャーナリズム振興財団寄付講座(現代メディア・ジャーナリズム論)」、「京都市消費者生活総合センター寄付講座(消費者問題と現代社会)」、「連合寄付講座(働くということ—現代の労働組合—)」、「同志社会計人会寄付講座(会計情報と組織運営)」、「読売新聞寄付講座(特殊講義 メディアから現代社会を読む(2))」
	他大学・研究機関などとの交流協定、包括協定、学生交換協定の実施(大学間)	アリゾナ大学、オレゴン州立大学(アメリカ)、マレーシア国際イスラム大学(マレーシア)、サンパウロ大学(ブラジル)
	連携大学院方式による教育・研究に関する協定書等締結	「公益財団法人大阪バイオサイエンス研究所」
	「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」	NAFSA's 2013 Annual Conference、成果シンポジウム(第1弾)「留学生のキャリアデザイン」、Fiche "2013 Executive Conference"、EAIE 2013 Annual Conference、アルガス・欧州日本学研究所との国際シンポジウム、留学生父母会(ソウル)、早稲田大学・同志社大学共同開催日本留学フェア開催(ベルリン・イスタンブール)、G30採択大学主催グローバル30総括シンポジウム、日本語学校教員対象進学説明会(ソウル)、APAIE2014(ソウル)、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)最終報告書」発行
	「グローバル人材育成推進事業(Go Global Japan)」(申請区分:タイプA(全学推進型))	「国内型」と「留学型」の2つの新たな教育プログラムを中心に、創業者である新島義が目指した「良心教育」を礎として、「高い倫理観」と「幅広い教養」を兼ね備え、自らの責任で思考し、行動できるグローバルな人材の養成を目指す。6/21第一回「早稲田大学・同志社大学共同SDワークショップ」、11/23西日本第1ブロック大学共同ワークショップ「グローバル」の普遍性について、12/15第1回Go Global Japan Expo「目指せ!世界にはばたくグローバル人材!」
留学生学習・研究支援チューター制度	留学生の日本語及び英語力の向上や専門分野の研究についての支援を、指導教員の指導のもと、本学の正規学生が行う制度	
情報環境の整備充実	e-learningシステムリプレイス、ICカードによるAV教車キースレスエントリー化、遠隔講義システム更新など	
司法研究科の教育支援	アカデミックアドバイザー、特別授業等実施、判例・法令・法律雑誌データベース契約の継続、国際法務教育プログラム実施など	
入試	志願者数	一般選抜入試4万2,340名、大学入試センター試験を利用する入試1万604名
	外国人留学生入試	ソウル(韓国)、台北(台湾)
	国際教育インスティテュート入試広報留学(進学)説明会やフェアの参加、高校訪問	Japan Day主催(オーストラリア) 参加フェア:Honolulu National College Fair(アメリカ)、Hyper Japan Fair(イギリス)、St. John's College Fair(アメリカ)、Hawaii College & Career Fair(アメリカ)、Concordia's World University Fair(中国)、NAJAH exhibition(アラブ首長国連邦) 国内外の高校やインターナショナルスクールの訪問(説明会、模擬授業など)
	「G30大学主催留学フェア」参加、「同志社大学説明会」開催	マレーシア(G30事務局)、タイ(G30事務局)、ベトナム(京大)、インド(東大/立命)、アメリカ(G30事務局)、イギリス(慶應)・フランス(明治)、ドイツ(早稲田)、トルコ(同志社)、台湾(早稲田)

区分	事業	内容補足
入試	JASSO日本留学フェア	高雄・台北(台湾)、ソウル・釜山(韓国)、ジャカルタ(インドネシア)、ハノイ・ホーチミン(ベトナム)、クアラルンプール(マレーシア)、北京・上海(中国)
	海外指定校推薦入学面接の実施	ソウル・釜山(韓国)、大連・上海(中国)
学生支援	同志社大学大学院私費外国人留学生授業料減免特別奨学金給付	留学生の20～30%に対し年間授業料を100%減免
	同志社大学私費外国人留学生授業料減免奨学金給付	年間授業料の50%、30%、20%を減免
	特定国からの外国人留学生に対する支援奨学金給付	特に経費支弁が困難である国や地域から入学を希望するものに月額8万5,000円に加え、学生納付金全額を支給
	留学生別科対象奨学金給付	年間授業料相当額の50%、30%または20%を支給
	東日本大震災被災学生支援募金給付金	東日本大震災被災学費減免申請者43名に対し給付
	東日本大震災被災受験生に対する入学検定料及び被災学生に対する学費減免措置の実施	受験生：入学検定料を全額免除 新入学生：入学全額、春学期・秋学期学費授業料の2分の1を免除 在学生：春学期・秋学期学費授業料の2分の1を免除
	融雪、大雨、大雪、台風、突風による被害に伴う学費等減免措置の実施	災害救助法適用地域被災者に該当する受験生、在学生に対して減免措置を実施
	課外プログラム	「エンパワー&エコツアー西表島」、「函館キャンブ」、「フレッシュヤーズキャンブ」、「WOT(ワット)」、「クローバーシアター」、「寒梅館夏まつり」、「CLAP」、「b(ぶらっと)プログラム」
	体育施設整備	夜間照明設備整備(テニスコート、ソフトボール場、軟式野球場)
	シャトルバスの運行	2校地(今出川校地と京田辺校地)間を結ぶシャトルバスを運行(今出川発：平日7便、土曜日4便 京田辺発：平日7便、土曜日5便)
	留学生課「学生スタッフ」による国際交流イベントの実施	留学生課において、学生が国際交流イベントを企画・運営する「学生スタッフ」を組織し、「Brown Bag Talk」「World Kitchen」「お話の国」「Book Club」「News Watch」「Doshisha Intercultural Presentation」を実施した。
	重点強化支援クラブ	Aランク：硬式野球部、ラグビー部、Bランク：フェンシング部、水泳部、ヨット部、アーチェリー部、準硬式野球部、サッカー部
	ラーニングアシスタントの配置	ラーニング・commonsにおいて学部学生の授業外学習に関する助言及び相談業務を担当
	留学コーディネーター、留学アシスタントなどの配置	ラーニング・commons2階グローバルビルにおいて、学生のグローバルキャリアデザインに関する相談などに個別対応する留学コーディネーターに加え、そのサポートに従事する留学アシスタント(学生)などを配置し、本格的にサポートを開始
	留学生生活支援アドバイザー	来日直後の留学生の学生生活の相談や質問に、本学の正規学生が応じるサポート制度
Career Guidanceの実施	外部講師を招き、日本での就職を希望する学生を対象とした就職ガイダンスを英語で実施	
One Day Internshipの実施	日本企業に興味がある学生を対象に、企業訪問と説明会を英語で実施	
財政	第2号基本金組入	教育研究施設設備の整備充実に充てる財源を予め計画的に確保するため、教学施設所用見込総額に伴う組入(2013年度～2017年度)を毎年12億円ずつ実施
	募金事業	今出川キャンパス新校舎建設資金募金、教育研究施設等整備資金募金、特定寄付奨学金募金、スポーツ活動充実資金募金など
その他	世界学生環境サミット出席	ロイファナ大学(ドイツ)
	国際シンポジウム	日米欧国際シンポジウム「グローバル社会と京都」6/10東京財団と共催、国際シンポジウム「国際化における日本語教育」9/7AKP同志社留学センターと共催
	家元講座	2013年11月26日 金剛流家元 金剛 永謙氏、2013年12月3日 井上流家元 井上 八千代氏、2014年2月3日 池坊次期家元 池坊 由紀氏、2014年2月18日 裏千家家元 千 宗室氏(JP TOWER Hall Conference)
	欧州留学フェア2013	5月19日(日)駐日欧州連合代表部主催(同志社大学共催、同志社大学良心館1階ルーセントプラザ) 欧州10数カ国から40の高専教育機関及び大学が参加し、およそ600名の学生・社会人の方が来場
	ランチタイム・チャペル・アワー新設	毎週金曜日のランチタイムに今出川校地でも実施
	宗教施設検討プロジェクト設置	京田辺校地宗教施設の設計を進める
	Doshisha Spirit Week 2013 (SPRING, AUTUMN)	「同志社を学び、知る」をテーマに春秋実施：5/27～6/1、10/28～11/2
	同志社ギャラリー開設	ハリス理化学館同志社ギャラリー開設(2013年11月29日)、第1回企画展「新島襄と八重」～2014年2月28日
	東京オフィス移転	日本ビル→京橋イーストビル(東京都中央区京橋2-7-19)
	同志社キャンパスフェスタ開催	校友・在校生・受験生との交流：(東京(10/5)、大分(10/12)、高知(11/4)、秋田(11/17)、山口(11/24))
	同志社フェア in 会津若松	全国の卒業生が山本覚馬・八重ゆかりの地に集い、地域の方々と交流(7/21)
	認証評価	機関別認証評価申請・経営系専門職大学院認証評価(大学基準協会)、法科大学院認証評価(大学評価・学位授与機構)
	新島旧邸特別公開	2012年9月27日～2014年3月31日、NHK大河ドラマ「八重の桜」放映に伴い、創立者新島襄の邸宅を公開
	新司法試験合格者数	42名(全国12位、西日本私立大学中1位)
	節電への取組	6/1～9/30の期間、2010年度実績に対し、各キャンパス15%程度の節電措置
	「ホームカミングデー」開催	同志社創立138周年記念Reunion(2013年11月10日)、卒業生に思い出の母校で過ごしていただくとともに、同志社大学の教育・研究の「今」を知っていただくことを目的に開催
	同志社クローバー祭2013	2013年11月3日～4日開催、学生・教職員・市民が一体となり、共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指す
	名誉文化博士贈呈	Bernd Engler(チュービンゲン大学長)
	Neesima Room	企画展：「会津と八重―八重を育てた故郷―」 公開講演会：会津と八重―八重を育てた故郷を語る―
	クリスマス	京田辺燭火讃美礼拝：学生、教職員と京田辺市民の参加によるクリスマス礼拝 イルミネーション点灯(今出川校地11/22～12/25、京田辺校地12/2～12/25)
「ビジネス研究科グローバル経営研究専攻修士課程」の開設準備	今出川校地において2014年4月に開設、2014年9月から学生を受け入れ	
短期プログラム受け入れ	夏期および冬期に、1～2ヶ月の短期留学生プログラムを受け入れ、実施(ノースイースタン大学、ニューオリンズ大学、メリランド大学、ハーバード大学、ロチェスター工科大学、ウィニベグ大学、南開大学、北京大学、復旦大学、浙江工商大学、南京大学、大連外国語大学、梨花女子大学、KCJS、CLS、同志社大学サマーセッション、同志社大学スプリングセッション)、Stay in Kyoto program(中国の大学生受入)、Jenesys2.0(外務省) ASEAN共同体大学生受入交流、KAKEHASHI Project(外務省)米国人大学生受入交流	

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源	
今出川校地	耐震改修	明徳館耐震改修	2013年度	2億4,600万円	学生生徒等納付金、寄付金
		弘風館耐震改修	2013年度	1億300万円	学生生徒等納付金、寄付金
		至誠館・扶桑館耐震改修	2013年度	3億7,800万円	学生生徒等納付金、寄付金
	その他整備	ハリス理化学館整備	2013年度	1億9,900万円	学生生徒等納付金、寄付金
		彰栄館改修	2013年度	2億800万円	学生生徒等納付金、寄付金
		バーパスロード舗装整備	2013年度	1億1,500万円	学生生徒等納付金、寄付金
京田辺校地	複合的研究施設建設	脳科学研究科移転を含む京田辺校地の教育研究環境整備	2013年度～2014年度	2億200万円	学生生徒等納付金、寄付金
	宗教教育施設建設	チャペルを中心とする施設建設に伴う設計管理費等	2013年度～2014年度	3,900万円	学生生徒等納付金、寄付金
	盤上館増築	スポーツ健康科学部入学定員増員に伴う改修等	2013年度	4億1,700万円	学生生徒等納付金、寄付金
	知真館2号館改修	歴史資料館収蔵庫移転に伴う改修	2013年度	1億2,100万円	学生生徒等納付金、寄付金
	事務室移転整備	教務センター移転に伴う事務室改修	2013年度	3億4,800万円	学生生徒等納付金、寄付金
その他	多々羅キャンパス	自動火災報知器更新	2013年度	4,000万円	学生生徒等納付金、寄付金
		中央監視盤更新	2013年度	2,300万円	学生生徒等納付金、寄付金
		外国人宿舎シャワー更新	2013年度	4,300万円	学生生徒等納付金、寄付金
		学外施設	ポート部合宿所改修	2013年度	5,800万円

同志社女子大学

全学的な英語教育のさらなる充実で グローバル人材を育成する



DATA	■ 創立	1876年
	■ 所在地	〒610-0395 京都府京田辺市興戸南針立97-1 TEL : 0774-65-8411 〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1 TEL : 075-251-4111
	■ URL	http://www.dwc.doshisha.ac.jp/

同志社女子大学は140年近い歴史の中で、常に時代の先駆けとなる新しい教育・研究に挑戦してきました。2015年4月には6つ目の学部として看護学部の新設を計画しており、少子高齢化社会において関心が高まる医療分野に対し、新たな取り組みを展開します。

音楽専攻科を設置 学部教育との連携にも配慮

13年4月、音楽専攻科を開設しました。実技に重点を置いた実践的な教育により、音楽に関する高度な演奏技術と専門知識を備え、音楽を通して社会に貢献できる人物を養成することを目的としています。また、知識や技能だけでなく、協調して芸術を創り上げる主体性、音楽創造力やプロデュース力を駆使して音楽の分野に能動的に参画できる態度を身につけることも目指しています。学部教育との連携にも配慮したカリキュラムを設置することにより、専攻科と学部の交流を促進し、教育上のシナジー効果も期待できます。

共通英語教育の改革

グローバル人材育成の一環として、13年度から共通英語教育(国際教養学科と英語英文学科を除く本学共通の英語教育)の改革を、主として次の3項目にわたって実施しました。

第1は習熟度別クラス編成です。入学直後に実施されたテストにより、1年次の必修英語科目である「英語講読」



同志社女子大学
かがひろお
加賀裕郎 学長

同志社女子大学は、女子総合大学の充実発展、学習するコミュニティの構築、教育・研究の質的高度化を基本方針に掲げ、「同志社女子大学の将来構想に向けた方針・方策」を策定・発表して、着実に実行することに努めてきました。

その中で動き出した大きなプロジェクトの一つが今出川キャンパスの総合的整備事業です。同事業を通して「学習するコミュニティ」という理念を具現化し、福利厚生充実を含めた安全安心な学習環境の構築に努めます。京田辺キャンパスについても、長期的視野に立ったマスタープラン策定に向けて検討中です。

「女子総合大学の充実発展」では、看護学部看護学科(仮称)の設置を計画しています。これにより、従来の薬学部、生活科学部、現代社会学部などと連動した新しい教育研究の可能性が開かれるとともに、一層の社会貢献に期待できると考えています。

と「英語コミュニケーション」を2段階の習熟度別クラス編成にしました。14年度からは2年次の共通英語科目も2段階の習熟度別になります。

第2は、TOEIC®の指導を標準化するため、各科目の授業時間の3分の1を共通してTOEIC®の指導にあてることにしました。「英語講読」ではTOEIC®のReadingパートの指導、「英語コミュニ

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数(2013年5月1日現在)

学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数
学部				
学芸学部	315	385	1,280	1,458
現代社会学部	400	450	1,620	1,839
薬学部	120	154	720	802
表象文化学部	290	331	1,180	1,330
生活科学部	215	239	860	1,037
合計	1,340	1,559	5,660	6,466
研究科				
文学研究科	31	9	70	33
国際社会システム研究科	10	2	20	4
薬学研究科	4	0	8	3
生活科学研究科	13	5	26	12
合計	58	16	124	52
専攻科				
音楽専攻科	20	20	20	20
合計	20	20	20	20
総計	1,418	1,595	5,804	6,538

教員数、職員数(2013年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
178	537	715	74	77	151	866

ケーション」ではTOEIC®のListeningパートの指導を行います。

第3は、テキスト選定方法の見直しです。「英語講読」では、学部学科の学問内容に近い内容のテキストを用いることとし、個々の担当者が選んだテキストのレベルを共通英語担当部署の責任者がチェックする体制を整えました。TOEIC®のテキストは、共通英語担当部署が選定します。

14年度からは、全1年次生が共通英語科目履修の一環としてTOEIC®を受験することが決まっています。

免許・資格取得に向けた支援体制の成果を実証

一方、同志社女子大学は資格取得に向けた支援体制を整えています。

13年3月に行われた「第27回管理栄養士国家試験」は、同年3月に生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻を卒業した77名全員が受験しました。その結果、全員が合格し、合格率100%という好成績を残しました。

現代社会学部現代こども学科第7期生のうち52名が受験した「平成26年度 公立小学校教員採用試験」では、37名が二次試験に現役合格しました。合格率は71.2%となり、これは2004年の学科開設以来最高の結果となりました。

薬学部医療薬学科では、「第99回薬剤師国家試験」を受験した2008年度入学生（14年3月卒業）94名のうち、69名が合格（合格率73.4%）しました。現在では、本学の全卒業生528名のうち、466名が薬剤師免許を取得して、さまざまなフィールドで活躍しています。

学芸学部国際教養学科は、カリキュラムに英語圏の大学への1年間の留学が組み込まれています。13年度に留学先から帰国した3年次生のTOEIC®の学科平均は783.25点と、大きな成果を上げています。また、800点以上を取得した学生は35名で、そのうち7名は900点以上を獲得しています。留学は英語力に加え、人間的に大きく成長する機会ともなっています。

地域・社会との連携も強化 教育・研究のさらなる充実を目指す

学術交流・教育連携も強化しています。13年6月26日に医療法人社団石鏡会（京田辺市）と学術交流等に関する包括協定を締結しました。この協定は、教育・研究及び医療等の全般における交流・連携を推進し、相互の教育・研究、医療技術等の一層の進展と地域社会の発展に寄与することを目的としています。

また、同年7月26日には奈良県立奈良北高等学校と、15校目となる教育連携協定を締結しました。この協定によ

り、人的・知的資源の交流・活用を通じて新たな学びの場を創造するとともに、相互の教育のさらなる充実・発展を図ります。

14年度（2014年4月入学）の一般入試志願者数（センター利用入試含む）は1万629名（前年比3.4%増）、その他の入試の志願者数は4,107名（前年比0.4%増）でした。

13年8月から始まった今出川キャンパス整備計画に伴う建設工事も順調に進んでおり、安心・安全な教育・研究環境の実現と施設・設備でのさらなる充実も図ります。

同志社女子大学2013年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	音楽専攻科開設	入学定員 20名、修業年限 1年
教職員採用	専任教員2名、特別任用教授[1号]1名、特別任用教授[2号]6名、任期付教員2名、特別契約教員(コントラクト)4名、特別任用助手1名、専任職員2名	
教育・研究	音楽学科音楽文化専攻カリキュラム変更	コース制を撤廃し、新たな科目群を設定するなど、柔軟な進路設計を可能とする自由度の高いカリキュラムを構築
	キャリア教育科目の充実	キャリア教育科目、各学科が実施するインターンシッププログラムの充実、本学学生が身につけるべき基礎的・汎用的能力「DWCLA10」の理解促進、学科において独自のキャリア教育科目を設置
	Semester 語学留学制度創設	1、2年次生を対象に、英語のスキルアップと異文化理解を主な目的とした留学制度を新設
	情報環境の整備充実	ネットワークリブレイス、一般教室・CALL教室のシステムリブレイスなど
	「ICT活用推進事業」補助金採択	「情報処理教育高度化ICTシステム整備事業」および「多角的な高度教育支援システム導入工事」が採択
入試制度	教育連携特別推薦入試試験の見直し	「ブール学院高等学校」および「金城学院高等学校」と新たに教育連携協定を締結し、全14高等学校で募集
学生生徒支援	「同志社女子大学奨学金」の拡充	経済上の補助を必要とする優秀な学生への奨学金を増額
	「同志社女子大学特別奨励賞」創設	勉学に励み、かつ課外活動等において活躍したものに対し、一層の向上を奨励することを目的として副賞を設定
財政	大雨、突風、暴風雪等による被害に伴う学費等減免措置の実施	災害救助法適用地域被災者に該当する受験生、新入生、在学生に対して減免を実施
	第2号基本金組入	キャンパス施設設備整備充実資金10億円
	第3号基本金組入	教育研究充実基金4,000万円
募金事業		「教育研究条件整備資金募金」に加え、「キャンパス総合整備資金募金」を新たに設定
	その他	認証評価(大学基準協会申請)
	「新島八重研究会」による調査・研究活動の継続実施	八重クイズ「Quiz de Yaye 100」小冊子の発行とNHK大河ドラマ放映に伴う情報発信
	「同志社女子大学の集い2013」開催	会津若松(6月1日、2日)、姫路(6月15日)、名古屋(6月16日)、北九州(9月14日)、松山(9月15日)
	「ホームカミングデー 2013」開催	今出川キャンパスにて、約720人の卒業生等が参加
	「同志社女子大学寮生の集い」開催	今出川キャンパスにて、約440名の在寮経験のある卒業生等が参加
	同志社女子大学史料室	第18回企画展「新島八重と同志社女学校」NHK大河ドラマ放映期間は土曜日、日曜日も開室
	節電への取り組み	5月13日～9月30日、11月15日～2014年3月31日の間に実施

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
今出川キャンパス	今出川キャンパス整備事業(耐震対応含む)実施設計、仮設建物建設、新心館解体他	2011年度～2017年度	総事業費58億円のうち4億300万円	第2号基本金
	今出川キャンパス非常用発電機設置	2013年度	3,600万円	学生生徒等納付金、寄付金
京田辺キャンパス	看護学部関連連棟(仮称)等建設工事のうち仮設建物建設、恵愛館解体他	2013年度～2014年度	2億6,200万円	
	京田辺キャンパス非常用発電機設置	2013年度	4,700万円	
	中央監視装置設備統合コントローラ更新	2013年度	2,400万円	
	知徳館大講義室空調設備工事	2013年度	6,000万円	
	聡恵館東館照明設備更新	2013年度	3,200万円	
めぐみ寮 耐震補修	2013年度	4,500万円	学生生徒等納付金、寄付金、補助金	

同志社中学校・高等学校



生き方がハンサムな
「同志社人」が育つ
教育の創造を



同志社中学校・高等学校
木村良己 校長

創立者・新島襄が遺した言葉に「真理之囚人コソ、真ニ自由ノ人ナレ」があります。同志社は自分のためだけではなく、人類の利益となるための学問を深める「知的創造空間」です。単なる教育的なサービスにとどまらず、「ホスピタリティ」の精神を宿した「真理之囚人」「真ニ自由ノ人」として志を新たに、生徒が長いスパンで育っていく教育空間と、生き方がハンサムな同志社人が育つ環境を創造していきます。

DATA	■創立	1875年
	■所在地	〒606-8558 京都市左京区岩倉大鷲町89 TEL: 075-781-7121
	■URL	http://www.js.doshisha.ac.jp/

知的好奇心と探究心を育む

2013年度も充実した教育施設環境の下で、各教科の学習において知的好奇心、探究心を育む指導を展開しました。各クラスで取り組む行事や生徒会活動などの特別活動でも、生徒の自主性を大切にしつつ、人間力の育成に努めました。

中学では、「教科センター方式」の運用のさらなる進化に合わせて、最先端の研究の一端を知る大学研究室（同志社大学、京都大学、東京大学など）訪問、企業との連携によるグッズ開発（「八重の桜」にちなんで会津木綿がまぐち商品）などを行いました。

高校では、以前から続けている「土曜特別補講」に加えて、進路選択・将来展望を切り開く「パワーアップセミナー」「ようこそ先輩IWAKURA版」などを開催しました。

英語力強化・国際交流プログラムを拡大

国際交流プログラムでは、中学は従来のヌエバ交換留学に加えて、ニュージーランドでのホームステイ語学研修、ターム留学、国内英語研修を含めた多彩なプログラムを展開しました。高校ではウエスリーカレッジとの相互交換留学に加え、ハワイ・プナホウスクールにも派遣しました。

生徒一人ひとりの力を最大限に引き出し、意欲的に学びたいという気持ち

を応援する本校では、クラブ活動や課外活動も活発で、生徒が中心になって行っている「Lunch Time Concert」は36回を数えました。校地整備の面では、南グラウンドに引き続き、東グラウンドを人工芝化しました。

13年度入学者の入試実績は、中学の一般入試の志願者は386名、入学者は学内進学生徒を合わせて293名。高校は一般入試と推薦入試の合計で330名の志願者があり、入学者は学内進学生徒を合わせて366名でした。

同志社中学校・高等学校2013年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員5名採用	英語科2名、社会科2名、理科1名
教育・研究	土曜日特別補講	高校2年生対象(国語・数学・英語)、高校3年生対象(化学・物理)
	短期交換留学	オーストラリア・ウェスリーカレッジへ派遣10名(高校1年生)・受入(10名)、ヌエバスクールへ派遣・受入5名(中学生)
	短期留学	ハワイ・プナホウスクールへ派遣1名(高校生)、カナダ・ターム留学3名(中学生)
	パワーアップセミナーの実施	高校3年生対象「特別企画」(将来展望・進路開拓)
	研究誌発行	彰栄36号別冊「教育・研究実践」(中学校)
	国際交流プログラム	ニュージーランドホームステイ語学研修20名(中学生)、ハーバード、MIT、アーモスト研修、カナダ語学研修プログラム他
学生生徒支援	奨学事業	給付12名：四方秀和奨学金(2名)、同志社高等学校特別奨学金(2名)、同志社校友会奨学金(4名)、同志社中学校新島会奨学金(3名)、同志社中学校司鐘奨学金(1名) 貸与3名：同志社高等学校学資貸与金(1名)、同志社中学校桑の実奨学貸付金(2名)
	修学支援事業	あんしん修学支援奨学金(給付：111名)
	奨学金加算給付措置	京都府の私立高等学校あんしん修学支援事業導入に伴い、四方秀和奨学生に対し特別奨学金から教育充実費相当額を加算給付
財政	第2号基本金組入・取崩	第2号基本金1.25億円を取崩し(校地整備に充当) 第2号基本金2億円を組入れ(南体育館及び付属棟建替え資金)

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
校地整備	グラウンド整備、更衣室・退避スペース等整備、しらすぎ会館整備、ケヤキ広場整備	2012年度～2014年度	約4億円～4億2,000円	第2号基本金、学生生徒等納付金、寄付金
ICT教育設備整備	中学生用iPad、教室用ノートPC、美術教室教材提示装置整備	2013年度	520万円	学生生徒等納付金、補助金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2013年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	288	293	864	877
高等学校	360	375	1,080	1,090
合計	648	668	1,944	1,967

教員数、職員数(2013年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数	
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計	
88	64	152	11	17	28	180	

同志社香里中学校・高等学校



グローバル化への
第一歩を
力強く踏み出す



同志社香里中学校・高等学校
にしやまけいいち
西山啓一 校長

新校舎の完成により中・高生が一体となって学ぶ環境ができ、中学の生徒会と高校の生徒自治会の連携が活発化しました。具体的には、文化祭や音楽祭、体育祭などは生徒たちが主体的に企画・運営にかかわり、通学路の安全確保にも自主的に取り組みました。新島襄の言う「自治自立」、つまり自分で考え、判断し、行動する自覚が育ちつつある今、その芽を大きく育てていくのが私たち教職員の役割だと考えています。

- DATA**
- 創立 1951年
 - 所在地 〒572-8585 大阪府寝屋川市三井南町15-1
TEL : 072-831-0285
 - URL <http://www.kori.doshisha.ac.jp/>

海外交流がさらに充実

創立60周年記念事業としての校地整備がほぼ完了した2013年度は、教育内容の充実に力を入れました。海外交流プログラムについては、従来の語学研修に加えて、米国ボストンのフィリップス・アカデミー・アンドーバー・サマーセッション(37日間)、ハワイ・プナホウスクールでのSGLI(14日間)にそれぞれ高校生1名が参加しました。このように、ハイレベルな研修に関心を持ち、チャレンジする生徒を増やすことができました。

「国際交流に関するエッセイコンテスト」では、日本語部門で最優秀賞と佳作に本校の生徒1名ずつ選出。英語力を競う「立石杯」では、立石杯とD部門の優秀賞、優良賞を本校の高校生3名が独占受賞しました。

高校ダンス部が3年連続全国優勝

課外活動では13年度も素晴らしい成績を取めました。高校ダンス部は3年連続で全国優勝を果たし、中学のダンス部も全国大会で準優勝しました。軽音楽部は全国大会で準優勝し、書道部は高野山競書大会で管長賞と総長賞を受賞、マンドリン部は全国大会でイタリア総領事賞を受賞しました。そのほか、中学のテニス部、中・高のレスリング部、高校の陸上部、中・高のスキー部などが全国大会に出場しました。

新たな取り組みでは、弁護士のアドバイスを受けて、いじめ防止対策基本方針を策定。リスク管理のため学内監視カメラの運用内規を整備しました。

13年度入学試験の結果は、中学校

が志願者1,142名、合格者426名で、高校は志願者74名、合格者73名でした。成績優秀な生徒を確保するため、従来の入試委員会を14年度から入試部に昇格させることを決めました。

同志社香里中学校・高等学校2013年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員 2名	国語科1名、保健体育科1名
教育・研究	海外交流プログラム	日韓高校生交流プログラム(YFU)(25日間、高校生1名)、アメリカ・ボストン フィリップスアカデミー・サマーセッション(37日間、高校生1名)、カナダ・バンクーバー語学研修プログラム(17日間、高校生27名、中学生5名)、アメリカ・ハワイ プナホウスクールSGLI(14日間、高校生1名)、オーストラリア・ピンブルレディーズカレッジ短期留学プログラム(31日間、高校生1名)、イギリス・グレンシャム校交流プログラム(11日間、高校生2名、中学生13名)、アメリカ・サンフランシスコヌエバスクール交流プログラム(9日間、中学生5名)
	国際交流イベント "The Small Planet 2013"	異文化理解と交流、高校生全員と中学生希望者、ピーター・フランクル氏講演会
	アドバンス講座	国公立大学等を目指す生徒対象、外部講師による講義、全25回
	キャリア教育	社会人講師を招き、実践的キャリア教育を実施(中学3年生対象)
	人権アッセンブリー	講演とパフォーマンスによる人権教育。中学3年生と高校生全員参加
	福祉体験授業	寝屋川市福祉協議会等の協力による車椅子体験学習(中学1年生対象)
入試制度	中学前・後期日程実施	後期日程導入3年目(志願者 前期: 401名 後期: 741名)
学生生徒支援	給付奨学事業	香里中・高奨学金(2名)、香里PTA奨学金(3名)、校友会奨学金(2名)
	就学支援事業	大阪府私立高校生等就学支援推進校指定による奨学金(高1: 114名、高2: 122名、高3: 97名)
財政	創立60周年記念事業募金	特別教室棟・新普通教室棟等の建設事業のため
その他	オープンキャンパス・体験授業	オープンキャンパス6月2回・10月1回、体験授業6月2回実施
	クリスマスセレブレーション	地域住民との交流イベント
	わくわくサイエンスデー	寝屋川市内の小学生向け理科体験授業

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
校地整備	2012年8月の集中豪雨による第一グラウンド法面崩落の修復旧工事	2014年1月～3月	2,880万円	学生生徒等納付金
教育環境整備	興文館の空調設備の改修工事	2013年7月～9月	2,260万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2013年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	244	720	739
高等学校	315	305	945	914
合計	555	549	1,665	1,653

教員数、職員数(2013年5月1日現在)

教員数			職員数		教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計
67	42	109	8	0	8
					総計
					117

同志社女子中学校・高等学校



DATA ■創立 1876年
 ■所在地 〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1
 TEL : 075-251-4305
 ■URL <http://www.girls.doshisha.ac.jp/>

「地の塩」「世の光」となる
 女性を育む
 奉仕の精神を受け継ぎ、



同志社女子中学校・高等学校
 つじむら よしみ
 辻村 好 校長

本校は、キリスト教主義に基づく奉仕の精神を大切に、「地の塩」「世の光」となる女性(ひと)を育てる教育を実践しています。2013年に、八重の生涯を追ったNHK大河ドラマ「八重の桜」が放映され、本校の原点を学び直すことができ、多くの方が本校への理解を深められました。卒業生はそれぞれの場所で力を尽くしています。いろいろな人の活躍を体感できる場を作りつつ、生徒の心を耕していきたいと思いをしています。

さらに充実した教育体制

2013年度入学生から高校の新カリキュラムを全面実施し、LAコース1、2年生の英語の授業を週5時間から6時間に増やすなど工夫をしています。

卒業生に大学での研究や仕事について語ってもらう進路講演会は、これまで高校生だけを対象としていましたが、中学生向けの会も開催し、学習のモチベーション向上につなげました。また中学1年生に学習ガイダンスを行い、自宅学習の方法や計画の立て方などをアドバイスして基礎学力の強化を図っています。

ほかの社内校と同様、ハワイでの国際交流プログラムを始めました。14年度に向けて、名門女子大学スミスカレッジでの新たなプログラムに参加するための準備にも入りました。国際的な環境で新しい女性のキャリア像や自分の進路について考え、発表する内容です。

貴重な体験ができた人権福祉講演会

6月の「花の日」を「福祉の日」としています。13年度は中学生対象の人権福祉講演会として、聞こえない者と聞こえる者が共に楽しめる芝居創りをしている京都の劇団を招きました。手話やパントマイムによる交流など、互いに伝え合える貴重な体験となりました。課外活動では、フェンシング、アーチェリー、硬式テニス、ワンダーフォーゲル

ル、スキー、フィギュアスケートがインターハイに出場しました。

新校舎建設工事に着工し、3月に新校舎と旧校舎をつなぐ連絡デッキが完

成しました。14年度の入試実績は、中学は志願者総数768名、合格者468名で、高校は定員20名に対して合格者は23名でした。

同志社女子中学校・高等学校2013年度の事業実績

区分	事業	内容補足	
教育・研究	新カリキュラム	高校1年生より新カリキュラム実施	
	国際交流プログラム	イギリス語学研修(高校)	モーバンカレッジへ30名(15日間)
		オーストラリア語学研修(中学)	シドニーセントレオズカレッジへ25名(12日間)
		アメリカヌエバ校との交流(中学)	派遣5名(9日間)、受入6名(8日間)
		ハワイプナホウスクールSGLIプログラム(高校)	派遣1名(14日間)
	TOEIC受験	高校1年生 Bridge、2年生 Bridge、IP、3年生IP	
	新入生交流プログラム	中学1年生修養会(2泊3日 ユニピア篠山)	
	宗教交流プログラム	中学2年生～高校3年生(1泊2日 琵琶湖リトリートセンター)	
	平和教育	中学2年生 長崎修学旅行(2泊3日)、高校2年生 沖縄修学旅行(3泊4日)	
	福祉教育	福祉施設、多磨全生園、高齢者施設訪問	
芸術鑑賞	劇団芸優座の演劇鑑賞(全校生)、狂言鑑賞、中国楽器鑑賞(中学1年生)		
チューター制度	本校卒業生の指導による中学生の英語・数学の学力向上		
入試制度	中学前・後期日程実施	後期日程導入3年目(志願者 前期:313名 後期:457名)	
学生生徒支援	奨学金制度	女子中学校・高等学校奨学金(給付4名、貸与2名)	
	修学支援事業	あんしん修学支援事業(給付85名)	
	クラブ活動費補助	全国大会等学校が認めた行事への活動費補助を強化	
財政	第2号基本金組入	教学施設整備資金1億5,000万円(新校舎建設、耐震改修)	
	特定支出準備金繰入	教育機器整備資金2,000万円	
その他	オープンキャンパス・体験授業	小学5、6年生、父母等参加	

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教育環境整備	情報システムサーバ新規構築	2013年度	1,638万円	学生生徒等納付金
防災対策	非常食、救助救命器具等配備	2013年度	173万円	学生生徒等納付金
校地整備	新校舎建設事業	2012～	2億2,667万円(2013年度分)	学生生徒等納付金、法人内資金
		2013年度		
	埋蔵文化財調査	2013年度	1,446万円	学生生徒等納付金

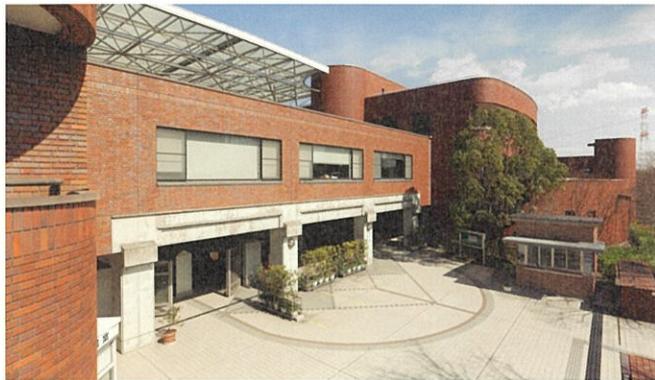
入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2013年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	248	720	750
高等学校	270	266	810	801
合計	510	514	1,530	1,551

教員数、職員数(2013年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
63	47	110	8	4	12	122

同志社国際中学校・高等学校



世界の人々と
対等に意見交換のできる
真の国際人を育成



同志社国際中学校・高等学校
かわいくになか
川井国孝校長

人や企業のグローバル化がクローズアップされています。本校は、確かな知識と高い語学力のみならず、しっかりと自己を確立し、自分の意思を相手に伝達できる教育を進め、早くから国際社会で活躍する人材を送り出してきました。今後も、多様な価値観を持つ生徒一人ひとりを大切にす教育を実践し、豊かな人間力を育み、各国の人々と対等にコミュニケーションを図ることのできる生徒の育成に努めます。

- DATA**
- 創立 1980年
 - 所在地 〒610-0321 京都府京田辺市多々羅都谷60-1
TEL : 0774-65-8911
 - URL <http://www.intnl.doshisha.ac.jp/>

中学入試方法を大幅に変更

2013年度は中学校の入試方法を大きく変更し、帰国生徒入試、国内一般生徒入試とも従来の4教科から、「国語」「算数」および「理科、社会、英語のいずれか1教科を選択」の3教科にしました。帰国生徒に関しては、A選考の入試を12月と2月の2回とし、12月は海外でも受験できるようにしました。

15年度は同志社国際学院(DIA)初等部から多数の生徒が本校に推薦により入学してくることから、中1の定員を1クラス分(40人)増員します。13年度はそのための増築工事に着手しました。

文部科学省が14年度に向けて公募した「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」事業に応募し、SGHに準ずる形の「SGHアソシエイト」に認定されました。国際バカロレア(IB)の考え方を日常の教育に生かすための研究活動は、13年度も継続しました。

国際イベントで1位入賞

高校生による世界レベルの課題解決型競技、「グローバル・エンタプライズ・チャレンジ2014」の国内大会が3月に開催され、本校の高校2年生7名によるTeam Doshisha Kokusaiが1位入賞を果たし、ドイツで開催される世界大会への出場権を獲得しました。

14年度入学者の入試実績は、中学校は志願者が147名(海外帰国生徒91

名、国内一般生徒56名)で、合格者は99名(海外帰国生徒64名、国内一般生徒35名)。高校は志願者が309名(海

外帰国生徒219名、国内一般生徒90名)で、合格者は217名(海外帰国生徒152名、国内一般生徒65名)でした。

同志社国際中学校・高等学校2013年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用 教育・研究	専任教員2名	英語科1名、音楽科1名
	新カリキュラム	高校1年生より語学力を強化するためのカリキュラムに変更
	校内英語試験	生徒全員が実用英語検定またはTOEFLを受験
	国際バカロレア(IB)についての研究	IBの考え方を本校の教育に活かすための研究
国際交流プログラム (海外短期研修)	ザ・ヌエバ・スクール交換プログラム(中学生6名)、ヌエバ・スクール・サマーキャンプ(中学生6名)、フィリップス・アカデミー・アンドバー・サマーセッション(高校生2名)、サマープログラム・イン・アモスト・カレッジ(高校生15名)、メンロスクール交換プログラム(高校生2名)、ハーバード大学サマースクール(高校生3名)、Izalde交換プログラム(高校生12名)、EABJM研修(高校生12名)、徹新中学高等学校・恵泉女子高等学校訪問(高校生4名)	
	国際交流プログラムの実施(留学生受け入れ)	ザ・ヌエバ・スクール交換プログラム(中学生6名)、アバラマ州高校選抜生徒(高校生15名)、Izalde交換プログラム(高校生12名)、メンロスクール交換プログラム(高校生3名)、St.Helen's High Schoolプログラム(高校生3名)、EABJM(高校生14名)、アモスト中学受入(中学生1名)
平和教育	長崎研修旅行(中学2年生)、沖縄研修旅行(高校3年生)	
新入生交流プログラム	宿泊研修を実施(中学1年生、高校1年生)	
体験学習プログラム	ハチ高原(中学1年生)、南阿波(中学3年生)	
スーパーグローバルハイスクール事業	公募されたスーパーグローバルハイスクール事業に申請	
入試制度	中学入試制度の変更	科目数を4科目から3科目(国語・算数+1科目選択)へ変更
学生生徒 支援	奨学事業	校友会奨学金(給付2名)、新島奨学金(給付2名)、海外長期留学奨学金(給付4名)
	修学支援事業	あんしん修学支援奨学金(給付48名)

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教学施設整備	校舎増築等	2013年8月～2014年11月	6億7,000万円	第2号基本金、学生生徒等納付金、法人内資金
校内施設整備	寮東側テニスコート人工芝改修	2013年8月	900万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2013年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	90	81	300	287
高等学校	270	277	810	837
合計	360	358	1,110	1,124

教員数、職員数(2013年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
52	65	117	7	1	8	125

※国際中学校の定員について
入学定員が90名の理由は、2年次に編入生が15名入るためである。1年生…90名 2、3年生…105名ずつ

同志社小学校



DATA	■創立	2006年
	■所在地	〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町89-1 TEL: 075-706-7786
	■URL	http://www.doshisha-ele.ed.jp/

学びを楽しみながら、
思考を深めていく
「道草教育」を实践



同志社小学校
おくのひろゆき
奥野博行 校長

子どもたちが自発的に学びにかかわり、思考を深めていく。何事にも積極的にチャレンジし、問題解決能力を身につけていく。これらを総合的に行っているのが、「道草教育」です。本校の教育を特徴づけるこの道草教育の中身をより明確にイメージしていただけるよう、今年度から「アクティブ・ラーニング」という副題をつけました。引き続き、知的好奇心にあふれ、豊かな心と人間性をもった子どもの育成に努めます。

「科学を楽しむ心」を醸成

本校は、児童一人ひとりが生活や学習で物事に対する興味・関心を喚起し、学び合い、発表する力を養うことに主軸に置いた教育を実践しています。同時に、友達の研究発表を聞くことで興味の対象を広げるとともに、学び合う大切さも身に付けさせます。夏休みの期間中に3年生以上の児童を対象にした「理科の自由研究発表会」は、実験を通して「科学を楽しむ心」「思考する力」を養う絶好の機会になっています。

こうした取り組みにより、2013年度は京都市青少年科学センターが主催する「京都サイエンスコンテスト」で、京都市教育長賞や京都市青少年科学センター生物賞を受賞するなど、多くの児童が素晴らしい成績を取めました。

6年生の修学旅行は、昨年度に引き続き新島襄の足跡をたどり、米国のアーモストやボストンを訪ねました。リタイアメントセンターでは高齢者に日本の文化を紹介し、ボストンの子ども博物館では現地の小学生に日本の遊びを披露するなど、幅広い年齢層の方々と交流できました。

安全確保を一段と強化

国際交流・国際理解教育では、同志社大学の外国人留学生を招き、英語の授業を中心に児童と交流を深める活動を実施しました。4年生以上を対象に、

音楽公演と教育活動を行う「ヤングアメリカンズ」のワークショップは13年度も継続実施。14年度はこのワークショップ以外にも、同志社卒業生などを招き、本物に触れ感性を磨く体験学習「同志社タイム」の充実を図ります。

ハード面では図書室と第二音楽室の

床材を張り替え、プロジェクター、警備カメラなどを更新しました。また、子どもたちの安全確保をいっそう強化するため、最新式の登下校安全管理システムを導入したほか、登下校のマナー向上を目指し教職員が電車内や最寄り駅などで指導にあたりました。

同志社小学校2013年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	教諭(常勤講師)1名採用	育児休業の教員に代わり、教諭(常勤講師)を1名増員
教育・研究	宿泊体験学習	1年生:学校(1泊2日)、2年生:アクトバル宇治(1泊2日)、3年生:ハチ高原(2泊3日)、4年生:一里野高原スキー(3泊4日)、5年生:北海道(4泊5日)、6年生:修学旅行が宿泊体験学習を兼ねる
	修学旅行	6年生:アメリカ合衆国(アーモスト、ボストン)
	水泳教室	継志館プールを使用して開催(7月23日~26日)
	同志社タイム	各界で活躍する同志社卒業生・在校生などを招き、本物に触れ感性を磨く体験学習を実施 ※2013年度は、下記Young Americansを実施
	国際交流・国際理解教育	同志社大学の留学生を招き、英語の授業を中心に児童と交流を深める活動を実施する
	Young Americans(ワークショップ)	音楽講演と教育活動を行う非営利団体(Young Americans)が行なうMusic Outreachというワークショップを通し、国際主義を標榜する同志社において、早い時期から本物に触れることにより、豊かな感性を育む(4年生から6年生を対象)
学生生徒支援	奨学事業	同志社小学校奨学金(給付2名)
財政	同志社小学校教育支援および施設・設備整備資金募金	一口20万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
視聴覚・情報環境整備	プロジェクタ、書画カメラ、AVミキサの取替更新	2013年度	351万円	学生生徒等納付金、寄付金、補助金
警備システム維持	画像記録用ハードディスク、警備カメラ交換	2013年度	170万円	学生生徒等納付金、寄付金
校舎維持整備	図書室、第二音楽室及びデンの床材張替え	2013年度	407万円	学生生徒等納付金、寄付金

入学定員、入学者数、収容定員、児童数(2013年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
小学校	90	89	540	537

教員数、職員数(2013年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
31	14	45	2	1	3	48

同志社国際学院



世界的な視野をもって
活躍できる
子どもたちを育む



同志社国際学院
にしざわよしただ
西澤由隆 校長

“Learning for Life, Learning for the World, Learning for Love”をモットーに掲げる同志社国際学院では、児童・生徒の一人ひとりが、自身の人生を豊かにしながら、世界的な視野で活躍できる資質を磨けるよう、子どもたちを育むお手伝いをさせていただいています。2011年4月に1年生から3年生の児童を迎えて開校した初等部は、14年度に6学年が揃うこととなり、その完成年度に向けて教育環境を整えました。

- DATA**
- 創立 2011年
 - 所在地 〒619-0225 京都府木津川市木津川台7-31-1
TEL : 0774-71-0810
 - URL <http://www.dia.doshisha.ac.jp/>

国際部がPYPを取得

本校は、文部科学省から教育課程特例校に認定された初等部（小学校6学年）と、インターナショナルスクールの国際部（DISK 12学年）の2つの学校から成り立ち、国際バカロレア（IB）に準拠した、独自の探求型のプログラムを用いています。

13年9月、本校の初等部がPYP（Primary Years Programme）の候補校に決定しました。すでにDP（Diploma Programme）の認定を受けた国際部は、エレメンタリースクールについてはPYPの候補校でしたが、14年1月にPYPについてもIB認定校となりました。これは13年度で最も大きな達成事項でした。

認定を目指すにあたって、初等部では教員2名が海外のIBワークショップに参加しました。うち1名は西澤で、校長としてメルボルンで3日間、集中講義を受講しました。もう1名の教員は国内でトレーニングを受けています。国際部では、教員3名が海外、6名が国内のIBワークショップに参加し、7名がオンラインで研修を重ねました。

創立者への理解を深める

初等部5年生の宿泊体験学習は、新島裏の故郷である群馬県安中で実施し、創立者への理解を深めました。修学旅行計画なども検討し始め、候補地として米国アモストやボストンを視

野に入れていきます。校外学習については、初等部では平和学習のために広島を、国際部では震災学習のために神戸を訪ねました。

13年度は、国際部のバスケットボー

ル部に加えてフットサル部でも交流試合を開催しました。初等部・国際部ともに、作文や文学コンテストで入賞者が出るなど、本校の児童や生徒は多くの場で活躍しています。

同志社国際学院2013年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	新入生・編転入生入学（開校3年目）	初等部：5学年300名（定員） 5学年×60名、10クラス 国際部：12学年180名（定員） 12学年×15名、12クラス
	教職員採用	初等部教諭2名 初等部：教諭17名、常勤講師1名 国際部教諭4名 国際部：教諭25名、嘱託講師1名 非常勤嘱託職員3名 英語サポート1名、日本語サポート1名、カウンセリング1名 アルバイト TIEアシスタント、教育サポーター等3名
教育・研究	初等部IB（PYP）	初等部IB（PYP）候補校決定 2013年9月～
	国際部IB（PYP）	国際部IB（PYP）取得 2014年1月
	IBワークショップ	初等部：海外2名、国内1名 国際部：海外3名、国内6名、オンライン7名
	宿泊体験学習（初等部）	1年：学校、2年：滋賀、3年：奈良、4年：美山、5年：東京、安中
	宿泊体験学習（国際部）	Elementary・Secondary：滋賀、G5：豊岡、Secondary：北海道
	校外学習（初等部）	1年：木津川市立図書館等 2年：木津川市役所、山城町森林公園、けいはんなプラザ等 3年：橿原市昆虫館、福寿園、木津川リサイクル研修ステーション他 4年：相楽中部消防組合、木津川上流浄化センター、山城町森林公園 5年：インスタントラーメン発明記念館、ダイハツ工業、読売テレビ、広島
	校外学習（国際部）	神戸、箱館山（スキー）、大阪歴史博物館等
	After School English Support（初等部）	放課後、希望者に対して実施
	フットサル、バスケットボール部交流試合（国際部）	マリスタ国際学校、Canadian Academy、Osaka International Schoolと対戦
入試制度	編転入、2014年度新入生の入学考査	初等部：秋・冬学期入学、春学期入学編転入試、新1年生入試（推薦、I枠、D枠） 国際部：随時実施
学生生徒支援	スクールバス増便	祝園駅（登校時4便、下校時4便） 学研奈良登美ヶ丘駅（登校時3便、下校時3便）
財政	教育支援および施設・設備整備資金募金	一口20万円（初等部・国際部）

入学定員、入学者数、収容定員、児童数（2013年5月1日現在）

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
国際学院	初等部	60	56	300	270
	国際部 Glade1～12	180	17	180	52
合計		240	73	480	322

教員数、職員数（2013年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
38	1	39	2	1	3	42

同志社幼稚園



DATA ■創立 1897年
 ■所在地 〒602-0836 京都市上京区今出川通寺町
 西入常盤井殿町543-1
 TEL : 075-251-4391
 ■URL <http://kinder.doshisha.ac.jp/>

努力の結果が見える
 活動を行い、
 主体性や意欲を育む



同志社幼稚園
 堂腰きみ子園長

幼稚園は、一貫教育の最初の入口であり、人格形成の根幹を最も大切に育てていくことが大切です。そのために、保育内容の見当、充実が重要です。毎日の園生活で主体的に意欲や関心を持って活動に取り組み、友だちと共に行動する「共汗」と共に感じる「共感」が成長を育みます。2013年度は園児に主体性と意欲、関心を持って活動することを年間目標に掲げ真の学びを追究し、教育の質を高めていきたいと思っております。

縦割りのチーム保育を導入

主体性や意欲、関心は、園児たちが何らかの目標を持って挑戦し、達成感を得て初めて培われていきます。

そこで2013年度は、登園時にホールに跳び箱を置き、登園してきた園児たちが自主的に練習できるようにしました。何段まで跳べるようになったか結果がわかることで、さらに意欲的に練習するようになりました。跳び箱を使わない子に跳ぶきっかけを作ろうと、後期には年長・年中組それぞれが必ず跳び箱を跳ぶ曜日を定め、それ以外の曜日は園児たちの選択に任せました。そして年度末にはたくさんの子が跳べるようになりました。

さらに後期からは縄跳びを取り入れ、運動への関心を高めるとともに、友だちと共に努力することを体感しました。

一方で、縦割りのチーム保育を取り入れました。教諭が園児一人ひとりの特性を生かすために、あるいは苦手なことに挑戦させるために、「ハンドベル」「ダンス」「聖歌隊」「運動」「木工」「飾り」の6種類の活動に振り分けました。後期は園児が自分の意思で活動を選び、主体性や意欲を育みました。

年長組を対象に1年をかけて、世界に1冊しかない自分だけの絵本製作を行いました。絵本づくりを希望された保護者にも製作を体験する機会を設けました。

心の根っこを育んだ病院慰問

全園児を対象にした合同礼拝では、キリスト教の精神に結びつくとえ話や実話を園児たちに話しました。それぞれのお話の中で、人の気持ちを考えたり、共感したり、園児一人ひとりの心を動かし、「心の育ち」を積むことができました。

年に2回、年長組が行っていた病院の慰問を4回に増やしました。お元気な高齢者が利用される福祉施設をはじめ、病院、老人保健施設、ホスピスを

訪ね、いろいろな方と接する中で、園児は心づもりや気づかひを身につけるとともに、心の根っこを育んでいきました。病院の慰問は、本園が心の育ちを大事にしている幼稚園であることを改めて保護者に実感していただくことにもなりました。1年間の取り組みの目的と成果を、関西幼稚園連合会の研究総会で発表したところ、他の幼稚園の先生方から反響を得ました。

未就園児教室には、「ほっこり一言」というコーナーを設けました。

同志社幼稚園2013年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	嘱託教諭1名	預かり保育等の充実に伴い増員
教育・研究	預かり保育の充実	全園児を対象に、週3回から週4回に増加して実施
	未就園児教室の充実	地域の未就園児を受入れて教育指導を行う未就園児教室の開催に重点的に取り組み、在園児との交流等様々な体験を通して子どもの成長を促すと共に、地域の子育てを支援(年間60回実施)
	技術向上の取り組み	登園後、毎朝自主的に跳箱を練習し成果をあげた年中組は、ハンドベルに触れ、少しずつハーモニーを楽しみ、技術の向上に取り組んだ
	ポスター発表	一年間継続してきた縦割りクラスの保育を、関西幼稚園連合会の研修総会で発表し、保護者にも報告会を開催

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
園舎修繕	トイレ、手洗い場等の改修	2013年4月上旬	525万円	寄付金
図書室改修	図書室改修、ロールスクリーン取付及び会議用テーブル・椅子の更新	2013年10月	58万円	寄付金
音響システム更新	ホールの音響システムを更新	2014年2月	93万円	寄付金
設備整備	食器棚、配膳テーブルの設置	2013年4月上旬	101万円	学生生徒等納付金、補助金、寄付金

入園定員、入園者数、収容定員、園児数(2013年5月1日現在)

	入園定員	入園者数	収容定員	在籍者数
幼稚園	30	36	100	96

教員数、職員数(2013年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
2	7	9	0	0	0	9

特集1

良心教育に関するシンポジウム

良心に溢れた人物を育てる
同志社教育の「原点」を考える

同志社大学今出川校地の良心館で2013年11月14日に、「良心教育に関するシンポジウム」が開催されました(主催:同志社キリスト教教育委員会)。同志社教育の原点である良心教育をテーマに、「現在の同志社にとって何が必要で、今後、何を行えばよいのか」などについて考えるシンポジウムです。当日の映像は、同志社大学京田辺校地の情報メディア館にも配信されました。

良心教育を正面から議論

開会にあたって大谷實総長は、以下のように挨拶しました。

「同志社のブランドとも言うべき良心教育について、学園内ではこれまで正面から議論されたことはありませんでした。また、『キリスト教主義』『自由主義』『国際主義』という教学の理念と建学の精神である良心教育の関連についても、ほとんど検討されていませんでした。これまで学園全体で明確にされてこなかった良心教育の中身を考え、同志社における良心教育の現状と、現代にふさわしい良心教育とは何かを展望していきたいと思えます」

その後、同志社大学神学部長でもある水谷誠理事長が、「良心教育とは」と題した基調講演を行いました。基調講

演の後には、「同志社の良心教育」と題したパネルディスカッションが行われました。同志社女子大学の加賀裕郎学長がコーディネーターを務め、水谷理事長と同志社大学の村田晃嗣学長、同志社中学校・高等学校の木村良己校長がパネラーとして登壇しました。今回のシンポジウムを通じて、現代にふさわしい良心教育のあり方が見えてきました。

「良心」と「conscience」

水谷理事長は基調講演で、特に「良心」と「conscience」について話しました。「日本語の『良心の意味』とキリスト教的な『良心の概念』は、ニュアンスが違います。日本語の『良心』は、英語では『conscience』になります。明治初期に中村正直が『西国立志編』というイギリスの書物を日本語に訳した時に、conscienceの訳として良心という日本語をあてました。しかし、conscienceとはともに(con)科学する、あるいは理性によって知る(science)ことであり、『善悪』の意味合いは含まれていません。『自らを問う(科学すること)』『さらに問いかけること』『神と対話すること』『祈りにつながること』が、キリスト教的な良心の概念なのです」

これが、同志社が大切にしている良心の概念です。「いろいろな判断基準がある中で、この世界を越えたもの(神)との対話を試み、自分の立ち位置を定めていこうとする姿勢が、良心の持つ意味だと考えています」(水谷理事長)。自分を自由に治めて(自由・自治)、自分の足で立って(自立)生きていける人物を育てるのが、同志社の良

心教育なのです。

同志社の魅力は、多様な人たちが集まっているところにあります。そして、同志社がこれからグローバル化をさらに進めていくうえで、多様性に対する感性、異なる価値観に対する感性が重要になってきます。

現代にふさわしい良心教育

そこで同志社大学では、良心教育を一方向的に学生に押し付けるのではなく、4年間の学びの時期を大切に、そこで成長してもらうための様々な仕掛けを作っていきたいと考えています。また、神学・哲学・政治学などの様々な視点から、良心を学問として探究するプロジェクトを展開していくつもりです。

同志社女子大学では、「リベラル・アーツ」と「キリスト教主義」が良心教育の根幹です。高い就職率や各種資格試験の合格率を目指しつつも、大切なのは「地の塩」「世の光」となる自治自立の女性を育成することです。日本や世界を良くしていく女性を、一人でも多く育てます。

4つの中学校・高等学校では、単に大学に入るためだけの受験勉強ではない、「人類の益」となるような学問を、それぞれの教科で提供しています。そうすることで、生徒たちはその空気を感じ取り、良心を携えた人物として花開いてくれると信じています。

同志社小学校の校歌には、「えらいひとになるよりも よいにんげんになりたいな」とあります。偉い人になるよりもはるかに難しい良い人間を育てるのが、同志社の初等教育の本質です。

今後も同志社は、建学の精神であり教育の原点である「良心教育」の意味を、時代に合った形で問い直していきます。



「同志社の良心教育」と題されたパネルディスカッション

特集2

「八重の桜」関連プロジェクト 復興につながるプロジェクトを 大河ドラマ放送と連携して実施



同志社キャラクター「八重さん」

2013年1月6日から12月15日まで放送されたNHK大河ドラマ「八重の桜」は、同志社創立者の新島襄の妻・八重の生涯をたどった物語でした。

ドラマのねらいは、激動の幕末に困難に立ち向かっていく八重の姿を描くと同時に、八重の出身地・会津若松がある福島に元気を取り戻すことでした。さらにドラマの放送によって、同志社の存在だけでなく、草創期の同志社や、新島襄の教育にける思いも知っていただくき

かけになったのではないのでしょうか。

学校法人同志社は、「八重の桜」の制作に賛同し、特別展展示や資料提供、取材対応など、全面的な協力をしました。そして福島県や会津若松市などと連携事業も含めて、多くのプロジェクト(表)を実施しました。

2012年に続き義援金を贈呈

同志社は12年6月より福島県に対する支援の柱の1つとして、復興協力金の

募金事業を立ち上げました。

13年1月29日、東京日本橋・ブリッジにいがたで、福島と京都の連携イベント「新島八重が結ぶ縁～こらんしょ福島おこしやす京都魅力満載フェア」の後、「福島県と学校法人同志社とのふくしま復興のための包括連携協定」を締結し、同時に八田英二理事長から佐藤雄平福島県知事へ第1回義援金を贈呈しました。第2回は、7月20日福島県郡山市で開催された「同志社大学キャンパスフェスタ in 郡山」の会場で大谷實総長から目録を村田文雄福島県副知事へお渡しし、尾嶋史章副学長から義援金(復興協力金)の募集に至った経緯を説明しました。募金事業は13年12月31日をもって終了し、最終分(第3回)を14年2月10日、福島県庁にて水谷誠理事長から佐藤雄平知事へ贈呈しました。3回合計で2,650万9,629円になりました。

各回とも、福島県として、同志社への感謝の言葉とともに今後とも「包括協定」に基づき学生との交流、研究での連携、産業・商業での協力などさらなる交流活性化への要望をいただきました。

八重ゆかりの会津、京都の生徒間交流

7月21日と22日の2日間には、「会津ジュニア大使」を同志社にお迎えしました。「会津ジュニア大使」は、会津若松市内で選抜された中学生28名です。八重のゆかりの地である会津若松と京都に住む中学生同士の交流を図り、八重ゆかりの施設の見学や会津物産展への参加などを通して、会津の元気を全国に発信する役割を担っています。

21日は同志社墓地や新島旧邸を見学され、午後からは同志社中学校・高等学校を訪問し、法人内4中学校の生徒と交

表 主な「八重の桜」関連プロジェクト

法人・大学関連
・2013NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」(東京江戸博物館) 出展 (2013年3月12日～5月6日)
・「関西・ふくしま大学生交流事業」報告会開催 (2013年3月16日)
・京都府庁日本館「観桜祭」へ「八重とその時代」のパネル出展 (2013年3月20日～4月7日)
・会津若松市観光課からイオン京都五条店でのイベント協力依頼 (2013年3月26日)
・Neesima Room企画展「会津と八重―八重を育てた故郷」開催 (2013年3月26日～6月30日)
・2013NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」(福島県立博物館) 出展 (2013年5月17日～7月3日)
・「新島襄と幕末の函館」展に協力 (2013年6月14日～9月1日)
・～新島八重のハンサムウーマン学～「新島八重に学ぶ男女共同参画大学」開催 (2013年6月16日～4回)
・2013NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」(京都文化博物館) 出展 (2013年7月13日～9月1日)
・NHK土曜スタジオパークの出張公開録画に協力 (2013年8月3日)
・「京乃七夕」に協力 (2013年8月3日～8月12日)
・新島八重のふるさと福島県の物産と観光展に協力 (2013年8月7日～8月12日)
・四賢夫人記念館企画展示「四賢婦人と同志社」開催 (2013年9月6日～2014年3月14日)
・会津若松市の鶴ヶ城に八重の像が完成 (2013年9月7日)
・東映太秦映画村の展示会「八重の京都」に協力 (2013年9月14日～2014年3月11日)
・会津まつりに協力 (2013年9月23日)
・国東市男女共同参画講演会・パネル展に協力 (2013年10月1日～10月11日)
・安中市新島襄生誕170年記念祭「平和の使徒 襄と八重」開催 (2013年10月19日)

女子大学関連
・卒業生・保護者対象「同志社女子大学の集いin会津若松」開催 (2013年6月1日～6月2日)
・2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」(京都文化博物館) への協賛 (2013年7月13日～9月1日)
・八重の桜記念コンサート開催 (2013年7月16日)
・食物研究会×イオングループによるメニュー「京都八重御膳」共同開発 (2013年7月20日～12月)
・桜咲く! 会津フェスタ2013「夏の陣」 in イオン京都五条店に協力 (2013年7月20日)
・学生対象「～新島夫妻の足跡を訪ねる～会津若松・安中ツアー」開催 (2013年9月12日～9月14日)
・「Quiz de Yaye 100」八重クイズ本発行 (2013年11月3日)
・音楽学科公開講座「『八重の桜』の音色感覚」開催 (2013年11月13日)
・同志社女子大学今出川講座「新島八重とうた―八重の桜はかく咲けり―」開催 (2013年11月17日)
・EVE (大学祭) の模擬店にJA会津出店 (2013年11月26日～11月28日)
・史料室企画展示公開講演会「新島夫妻と女性たち」開催 (2013年12月14日)
・史料室第18回企画展「新島八重と同志社女学校」特別展示「『八重の桜』の衣裳」開催 (2014年2月24日～3月31日)
・新島八重の帽子再現・展示 (2014年2月24日～3月31日)

流しました。「会津ジュニア大使」は、会津の魅力を紹介するプレゼンテーションをし、法人内中学校の生徒は京都市の紹介のほか、各中学校の紹介をしました。その後、同志社中学生の生徒会の企画により、校内ウォークラリーと大縄跳びを楽しみ、交流を深めました。

翌22日には、同志社大学キャンパスツアーに参加しました。

8月18日と19日には、会津若松市子ども会育成会連絡協議会指導児講習会第3期県外研修で小学生28名、指導者4名、引率者11名、教育委員会から2名合計45名が来洛し、八重ゆかりの金戒光明寺、若王子山頂の同志社墓地、新島旧邸そして同志社大学今出川キャンパスを見学しました。

旧邸見学で新島夫妻の生活を実感

福島県から西日本に避難されている方々のために、福島県と学校法人同志社との包括協定に基づき「八重ゆかりの地ツアー」を7月29日、12月7日、15日の合計3回開催しました。ツアーは、新島夫妻にまつわるエピソードを交えた講演から始まりました。その後、2人の私邸であった新島旧邸を見学。新島旧邸には、暖炉、イスやテーブルが並ぶ洋風の趣の居間、応接間があり、土間のないダイニング・キッチンも特徴です。そこで八重が使っていたワッフルメーカーや、書斎に当時のままある裏の机を見て、当時の雰囲気を感じ取ってもらいました。

タイムリーで盛り上がった講演会

八重は茶道裏千家の世界にも造詣が深かったことで知られています。その世界と八重の個性的な生き方を伝えることを目的とした講演会・シンポジウム「八重と裏千家」を、11月4日に同志社大学京田辺校地で開催し、約240名の方に参加していただきました。当日はまず、茶道裏千家大宗匠・千玄室氏（15代・前家元）による基調講演「新島八重刀自と茶道」がなされました。同志社と茶道裏千家との関係、八重とお茶の文化の出会いなどの紹介がありました。そして茶



写真1 キャンパスフェスタin福島での義援金贈呈



写真3 八重ゆかりの地ツアーでの新島旧邸見学



写真2 会津ジュニア大使が同志社墓地のお墓参り



写真4 はるか桜の植樹式

室への入口を通れば身分は関係なく、お茶は誰にとっても平等、その精神はキリスト教にも通じることが説明されました。

基調講演の後はパネルディスカッションが開かれました。露口卓也同志社大学文学部教授を司会に、佐伯順子同志社大学社会学部教授、小枝弘和同志社大学同志社社史資料センター社史資料調査員、廣瀬千紗子同志社女子大学表象文化学部教授がパネリストを務めました。テーマは「八重の生き方」で、大河ドラマ「八重の桜」を視聴して興味深く聞き入る参加者の姿が多く見られ、熱気を感じる講演会・シンポジウムでした。

綾瀬はるかさん命名の桜を植樹

14年に入ってから、2月26日に同志社大学今出川クラーク記念館北バスプール前広場にて、「はるか桜植樹式」が執り行われました。「はるか」桜は、森林総合研究所が開発し、福島県に贈られた新しい桜です。福島・東北を応援するシンボルとして、はるかかなたの未来にまで広がってほしいという想いを込めて、大河ドラマ「八重の桜」の主役である綾瀬はるかさんによって命名されました。

この桜は福島県と多くの企業の協賛により運営される「fukushima桜プロジェクト」により桜の苗木の数を増やし、福島県から国内外に届ける活動が予定されています。1本目は、福島県内、会

津若松市の鶴ヶ城の傍に植えられ、2本目は、全国に先駆け、県外初の植樹先として、同志社が選ばれました。

式典は、一同の黙祷から始まり、水谷誠理事長が聖書朗読し、福島県の復興、同志社と福島県のさらなる交流の発展を願って祈禱をしました。大谷實総長は式辞で「はるか桜に同志社の学生を見守ってもらいたい。何よりもはるか桜を大切に育て、同志社から福島県に元気を届けたい。大河ドラマは終わっても、これからも福島県との交流と連携が続き、両者が発展することを願っている」と述べました。続いて、福島県知事代理の景山博福島県大阪事務所所長から「ようやく復興に向けて一筋の光を取り戻し始めた福島県の状況をご紹介いただき、今後も同志社との強い絆を刻んでいきたい」との挨拶がありました。12年度関西ふくしま大学生交流事業参加学生代表と、14年度同志社クローバー祭実行スタッフ総括リーダーは「交流を通じて福島をより近く感じるようになった」「自らが震災復興の担い手になりたい」と思いを語りました。

東日本大震災の発生から3年が過ぎましたが、現在も避難生活を送られている方もおり、復興はまだ道半ばです。学校法人同志社は、今後も強みを生かして人的、知的、学術的な交流を深め、復興に協力していきます。

※小学校は2006年度から含んでいます。
※国際学院は2011年度から含んでいます。

図1 学生・生徒・児童・園児数



学生数は大学、女子大学とも学部増設により漸増しています。また、中高小学校および幼稚園においても、国際学院の学年進行等によって生徒数が増加しています。

図2 志願者数



大学、女子大学とも入試改革や入試広報の強化、新学部・学科等の展開により、志願者を安定的に確保してきました。中学校においても、2012年度にいくつかの学校で実施した入試改革により、志願者数が増加しています。

図3 教員数



教員数は、学部・研究科の新設や研究体制の整備など教学改革の進行に伴って、専任、嘱託講師とも増加しています。職員数については、非専任の活用や一部業務を外委託に移行させるなど効率化を進めながら、事務組織強化のため漸増しています。

図4 職員数



図5 専任教員数



2006年の小学校、2011年の国際学院初等部・国際部の設置、大学、女子大学の新学部・研究科への新規採用等により、近年は専任教員数の増加傾向が続きました。

図6 専任教員1人当たりの学生・生徒・児童・園児数

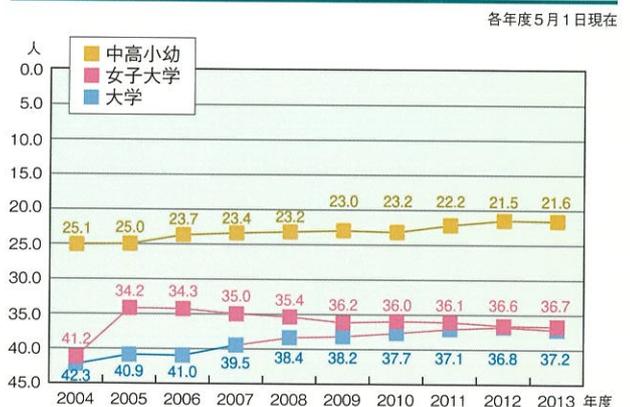
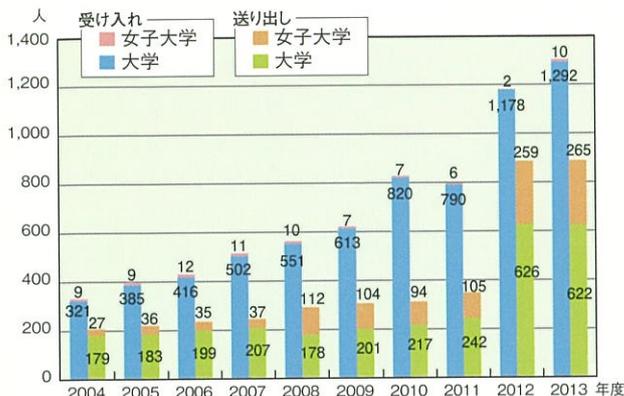


図1の学生生徒数を図5の専任教員数で割ったのがこのグラフで、数値が小さいほど教育研究条件の充実度が高いと考えられます。近年は各校ともほぼ同じ水準を保っています。

図7 留学生数

各年度5月1日現在。ただし、2012年度から送り出しは年度内に出国した人数



大学における文部科学省の「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」の採択(2009年度)等により、留学生の受け入れは着実に増加してきました。本事業は、様々な成果を収めて取組の到達目標を達成し、2013年度でもって終了することができました。送り出しについても、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業(Go Global Japan)全学推進型」の採択(2012年度)により、大幅に増加しています。

図8 留学生地域別状況

受け入れは5月1日現在。送り出しは年度内に出国した人数

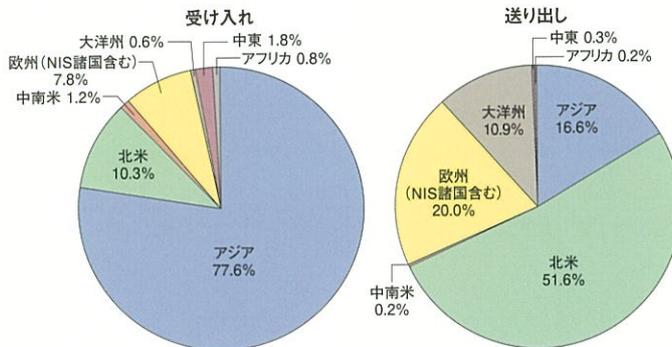


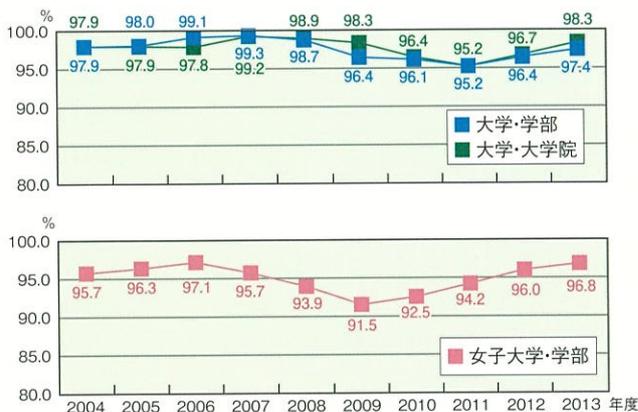
図9 学内奨学金

大学奨学金の入学前募集については、2011年度までは給付決定数、2012年度より辞退者を除く支給実績で集計



京都府の私立高等学校あんしん修学支援事業における京都府私立高等学校等授業料減免事業等補助金を活用した奨学金の充実(2011年度)、大学での若手研究者育成のための奨学金の新設(2012年度)により、給付額が大幅に伸びて総額10億円を突破しています。今後も制度の充実を逐次図ることで学生生徒の勉学を支えていきます。

図10 就職率(内定率)



就職率(内定率)とは就職希望者数に対する就職決定者数の比率です。景気変動により、年によって若干の低下がみられるものの、近年は上昇傾向に転じています。総じて安定的に高い水準を維持しています。

図11 科学研究費補助金

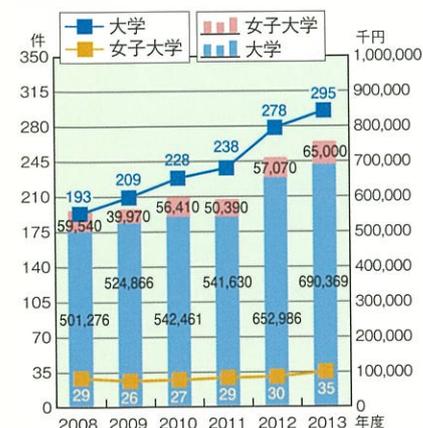


図12 受託研究費



図13 奨学寄付金(研究助成)



折れ線は各研究費の採択・受け入れ件数、棒グラフは金額を表しています。研究分野における産官学連携を促進するため、学内の受け入れ体制を整備したことにより、研究費に対する外部資金の導入は順調に進んでいます。

概況

2013年度は、大学に「グローバル地域文化学部」を烏丸キャンパスに開設しました。また、スポーツ健康科学部の入学定員を増員しました。今出川整備事業の完了により、各校地の特色を明確に位置づけ、今出川校地は8学部10大学院研究科、京田辺校地は6学部6大学院研究科の教育体制がスタートしています。女子大学では、「音楽専攻科」を開設しました。

法人内諸学校の学生・生徒・児童・園児数は、新設学部や年次進行などにより、昨年度比437名増加の4万2,676名(14年2

月末現在)となり、学生生徒等納付金の安定的収入を確保することができました。

また、大学、女子大学の一般選抜入学試験で安定した入学志願者数を確保するとともに、大学のセンター試験での入学志願者増により、手数料で予算額を上回る増収となりました。寄付金も大学への奨学基金あて寄付金や今出川キャンパス新校舎建設資金寄付金、国際学院開設記念寄付金、補助金でも経常費補助金などの増収もあり、帰属収入総額は予算を大きく上回っています。

支出では、経常的な事業支出は節減や執行残等により減少しました。建設事業では、大学の耐震改修事業、女子大学の新学部関連棟建設事業、女子中学校・高等学校の新校舎建設などの事業を実施しました。

以下、学校法人会計基準に基づく計算書を中心にして、本年度の本学の財政状況を説明します。

(文中、表の金額は、説明のため百万円未満を四捨五入等調整し、百万円単位で表しています。)

資金収支計算書

2013年度法人総合資金収支計算書は表1のとおりです。

〔()内は予算比: +は増加、△は減少〕

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入

474億1,300万円 (+1億6,900万円)

授業料収入は、予算積算時の収納見込額からの差異により、大学で1億300万円、女子大学で6,000万円の増収となるほか、香里中学校・高等学校、国際学院の各学校で増収です。

手数料収入

23億2,900万円 (+2億7,000万円)

入学検定料は、予算計上数に対する入学志願者数の増加により、大学で1億3,900万円、女子大学で1億1,300万円の増収のほか、各中学校・高等学校、小学校、幼稚園でも増収です。

寄付金収入

6億7,300万円 (+2億1,100万円)

民間企業等、在学生の保護者、卒業生、父母の会、校友会、教職員等からの寄付の他、奨学基金あての寄付、研究助成宛の奨学寄付や大学の今出川キャンパス新校舎建設資金あての寄付、国際学院開設記念あての寄付等により、大学で予算に対して1億2,400万円の増収、女子大学でも7,900万円の増収となりました。

寄付金明細はファクトブックに掲載しています。

補助金収入

71億8,000万円 (+7億6,700万円)

国庫補助金は、日本私立学校振興・共済

事業団等から大学、女子大学への私立大学等経常費補助金、文部科学省から大学への私立学校施設整備費補助金、国際化拠点整備事業費補助金、私立大学等研究設備整備費補助金などで、予算に対して6億9,000万円増収の53億円となりました。

地方公共団体補助金は、京都府や大阪府等から各中学校・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園への私学運営費補助金、授業料軽減補助金、また高校授業料無償化に伴う補助金などで、予算に対して7,700万円増収の18億7,700万円となりました。

補助金明細はファクトブックに掲載しています。

資産運用収入

9億1,600万円 (+9,200万円)

第3号基本金、退職給与、減価償却など引当資産運用収入及び受取利息配当金は実績により5,400万円の増収、施設設備利用料収入は、3,800万円の増収となりました。

資産売却収入

88億8,700万円 (+83億4,100万円)

第2号基本金引当資産売却収入は建設事業への充当、第3号基本金、退職給与、減価償却など引当資産売却収入は満期を迎えた有価証券の償還などによるものです。

事業収入

10億7,100万円 (+2億2,400万円)

企業等からの受託研究による収入、寮費や小学校給食費、国際学院スクールバスでの収入、外国語講座等セミナー受講料収入などを計上しています。大学、女

子大学の受託事業収入は、受託研究契約にもとづき1億4,500万円の増収です。

雑収入

13億4,800万円 (+1億300万円)

退職金財団交付金収入は10億2,700万円で、中学校・高等学校、国際中学校・高等学校、小学校の各学校での依頼退職者の見込みからの増により2,500万円の増収、競争的資金に係る間接経費等の受け入れなどにより、その他雑収入で7,700万円の増収となりました。

(2) 支出の部

人件費支出

303億7,800万円 (△8,800万円)

教員人件費は207億7,900万円で、予算に対して1,300万円の減少、職員人件費は77億9,200万円で1億3,200万円の減少となりました。退職金支出は17億7,900万円で、依頼退職者数の見込みからの増加に伴い、5,800万円増加しました。

なお、前年度に比べると、教員人件費は1億200万円の増加、職員人件費は4億2,000万円の増加となっています。

教育研究経費支出

161億3,000万円 (△9,300万円)

建設事業において、予算では施設関係支出などに資本的支出として一括計上していたうち経費支出となったことに伴う増加がある一方で、教育研究費、実験実習費の予算執行残や、消耗品費、旅費交通費で節減や予算未執行により、総額では予算内に収まりました。

表1 2013(平成25)年度 法人総合資金収支計算書

(単位: 百万円)

支出の部				収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費支出	30,466	30,378	88	学生生徒等納付金収入	47,244	47,413	△ 169
教育研究経費支出	16,223	16,130	93	手数料収入	2,059	2,329	△ 270
管理経費支出	2,474	2,637	△ 163	寄付金収入	462	673	△ 211
借入金等利息支出	19	19	0	補助金収入	6,413	7,180	△ 767
借入金等返済支出	349	349	0	資産運用収入	824	916	△ 92
施設関係支出	4,697	3,783	914	資産売却収入	546	8,887	△ 8,341
設備関係支出	2,832	2,606	226	事業収入	847	1,071	△ 224
資産運用支出	3,825	12,363	△ 8,538	雑収入	1,245	1,348	△ 103
その他の支出	1,918	2,042	△ 124	前受金収入	9,292	10,156	△ 864
予備費	120	0	120	その他の収入	2,405	2,416	△ 11
資金支出調整勘定	△ 1,367	△ 1,579	212	資金収入調整勘定	△ 11,130	△ 11,998	868
次年度繰越支払資金	22,833	25,845	△ 3,012	前年度繰越支払資金	24,182	24,182	0
支出の部合計	84,389	94,573	△ 10,184	収入の部合計	84,389	94,573	△ 10,184

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した資金収支計算書を掲載しています。

なお、前年度に比べると、建設事業費から経費支出への増加よりも、各事業での節減や予算執行残等が上回り2億600万円の減少となっています。

管理経費支出

26億3,700万円 (+1億6,300万円)

消耗品費、旅費交通費、通信費、広告費の予算執行残や節減もありましたが、建設事業費から経費支出への増加により予算額を上回りました。

借入金等利息支出

1,900万円 (予算どおり)

過年度に建設した校舎等の建築資金に対する日本私立学校振興・共済事業団か

らの借入金の利息支払額です。

借入金等返済支出

3億4,900万円 (予算どおり)

上記借入金の約定返済額です。

施設関係支出・設備関係支出

計63億8,900万円 (△11億4,000万円)

建物、構築物、機器備品、図書、ソフトウェアなどの固定資産取得による支出です。なお、固定資産への計上が必要とされるリース取引にかかるリース料総額を含んでいます。

大学では今出川校地での耐震改修工事ならびに京田辺校地磐上館増築工事や事務室配置変更工事、女子大学では今出川

キャンパス整備事業や新学部関連棟等建設工事、中学校・高等学校では校地整備事業、国際中学校・高等学校では校舎増築事業、女子中学校・高等学校では新校舎建設事業等を実施しました。

内訳については各校の「事業の概要」の「施設設備整備事業の内容」をご覧ください。

資産運用支出

123億6,300万円 (+85億3,800万円)

有価証券の満期償還に伴う引当資産などの買い替え、また本年度に増額した第3号基本金、減価償却引当資産に対する引当資産への繰り入れです。

学校会計の用語解説

学校法人会計基準に基づいて作成する財務計算書類には大きく分けて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表の3つがあります。

資金収支計算書

当該年度の支払資金の顛末、すなわち学校法人の1年間の諸活動に伴うお金の動きを網羅したものです。

消費収支計算書

当該年度の経営状況を表すものです。しかし、企業会計の損益計算書のような利益の測定が目的ではなく、収支の対応や均衡状態を示すことに主眼が置かれています。学校法人の使命は教育研究の永続的な充実発展であることから、財政基盤の安定を重視しているのです。

貸借対照表

一定時点(3月末現在)の財産の状況を明らかにするものです。

計算書で使用する用語とその意味は次のとおりです。

帰属収入

当該年度の収入のうち、学校法人の負債としない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

基本金組入額

基本金とは、学校法人がその諸活動の計画に基づいて継続的に維持すべき資産で、下記の第1号から第4号に該当するものです。これは帰属収入の中から充当します。これを基本金の組入(くみいれ)といいます。

第1号基本金は自己資金による土地、建物、設備などの固定資産の取得額、第2号基本金は将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額、第3号基本金は基金の積立額、第4号基本金は恒常的に保持すべきものとされる1カ月分の運転資金相当額です。

消費収入

当該年度の消費に充てる収入で、帰属収入から基本金組入額を差し引いたものです。

消費支出

人件費、物件費、減価償却額、借入金利息など当該年度に消費する支出です。

教育研究経費と管理経費

物件費は、直接教育研究に要するものとそれ以外の経費に分類します。後者に該当するのは、役員の業務執行、総務・人事・財務・経理その他法人業務、教職員の福利厚生、学生募集、食堂や売店、学寮(全寮制を除く)に要する経費などです。

消費収支差額

消費収入と消費支出の差額で、財政の均衡状態を表します。これがマイナスであると、消費支出超過いわゆる赤字で、収支が均衡せず資金不足となっていることを示します。

消費収支計算書

表2 2013(平成25)年度 法人総合消費収支計算書

(単位:百万円)

消費支出の部				消費収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費	30,315	30,213	102	学生生徒等納付金	47,244	47,413	△ 169
教育研究経費	21,989	21,910	79	手数料	2,059	2,329	△ 270
うち 減価償却額	5,767	5,780	△ 13	寄付金	462	903	△ 441
管理経費	2,729	2,884	△ 155	補助金	6,413	7,180	△ 767
うち 減価償却額	255	246	9	資産運用収入	824	916	△ 92
借入金等利息	19	19	0	資産売却差額	0	8	△ 8
資産処分差額	474	569	△ 95	事業収入	847	1,071	△ 224
徴収不能引当金繰入額	152	155	△ 3	雑収入	1,245	1,348	△ 103
徴収不能額	0	9	△ 9	徴収不能引当金取崩額	0	0	0
予備費	120	0	120	帰属収入合計	59,094	61,168	△ 2,074
				第1号基本金組入額	△ 3,719	△ 2,723	△ 996
				第2号基本金組入額	△ 2,550	△ 2,550	0
				第3号基本金組入額	△ 275	△ 328	53
				第4号基本金組入額	△ 190	△ 190	0
				基本金組入額合計	△ 6,734	△ 5,791	△ 943
消費支出の部合計	55,798	55,759	39	消費収入の部合計	52,360	55,377	△ 3,017
当年度消費収支差額	△ 3,438	△ 382					
前年度繰越消費収支差額	△ 27,170	△ 27,170					
基本金取崩額	0	0					
翌年度繰越消費収支差額	△ 30,608	△ 27,552					

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した消費収支計算書を掲載しています。

2013年度法人総合消費収支計算書は表2のとおりです。

[() 内は予算比: +は増加、△は減少]

(1) 帰属収入の部

611億6,800万円 (+20億7,400万円)

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、事業収入等の増収により、予算比3.5%の増加となりました。前年度と比べると、8億5,600万円、1.4%増となっています。

(2) 基本金組入額の部

第1号基本金組入額

27億2,300万円 (△9億9,600万円)

当年度の固定資産増加額は施設および設備関係支出、現物寄付で66億1,900万円、過年度事業にかかわる借入金等返済支出は3億4,900万円となり、一方で施設や設備の更新による当期除却高は39億7,900万円、過年度に組入れた第2号基本金からの振替額は2億2,500万円となっています。

第2号基本金組入額

25億5,000万円 (予算どおり)

将来に教学施設設備などを取得するため、計画に基づいて資金の組入を行いました。

第3号基本金組入額

3億2,800万円 (+5,300万円)

奨学事業に宛てた寄付金の組入や、教育研究事業を継続的に維持するため設定した基金への組入などです。

基本金明細はファクトブックに掲載しています。

(3) 消費支出の部

557億5,900万円 (△3,900万円)

管理経費は、建設事業における経費支出の増加により、総額では予算額を上回りました。施設や設備の処分や更新による未償却額等4億7,700万円や、図書等除却による8,600万円を含む資産処分差額でも予算を上回りましたが、人件費は予算内に収まりました。消費支出は予算に対して0.1%の減少となり、前年度に比べると14億6,900万円、2.7%増となっています。

(4) 消費収支差額の部

当年度消費収支差額

△3億8,200万円

帰属収入の伸びが大きかったことから、消費収支差額は依然支出超過ではあるものの、予算に対して30億5,600万円改善しました。

翌年度繰越消費収支差額

△275億5,200万円

消費収支の推移

図3は消費収支の均衡状態の推移を示したものです。

帰属収入は堅調に増加し、支出では大規模な建設事業を行った年度で基本金組入額が増加しています。

図4、5は帰属収入と消費支出の主な科目の伸び率です。

帰属収入では、学生生徒等納付金はなだらかな上昇カーブを描いています。手数料も、安定した入学志願者を確保し上昇しています。事業収入の大きな伸びは、受託研究事業など産官学連携の進展によります。

消費支出では、教育研究活動の活性化を反映して教育研究経費が伸び、学部・研究科の新設や計画的な教員増員により人件費が増加しています。

資産運用のリスクに対応するために

学校法人の資産は教育研究活動を安定的・継続的に支えるための大切な財産であり、資産の運用に際しては、安全性が強く求められます。そのため、学校法人同志社では、資産運用の対象や基準を定めると共に、資金運用委員会を設

け、運用計画の立案、運用状況の管理、運用結果の点検などを行い、その内容を適宜理事会に報告しています。

特に2007年夏以降、米国のサブプライムローン問題を契機に始まった世界的な金融危機によ

り、運用資産(債券)の時価が下落するなど運用リスクが高まったため、「有価証券の評価換え」ならびに「運用債券の損失時の対応」に関する取り扱いを定め、適切な運用管理に努めています。

図1 帰属収入の構成比

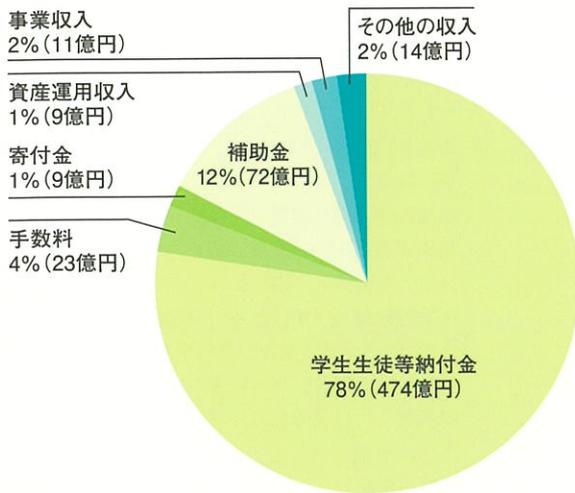


図2 消費支出+基本金組入額の構成比

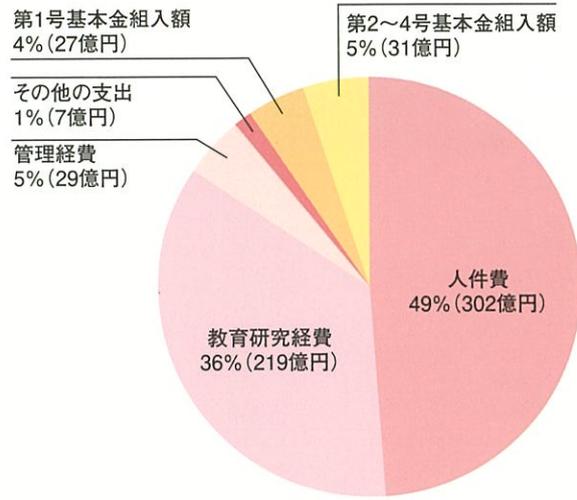


図3 消費収支の推移

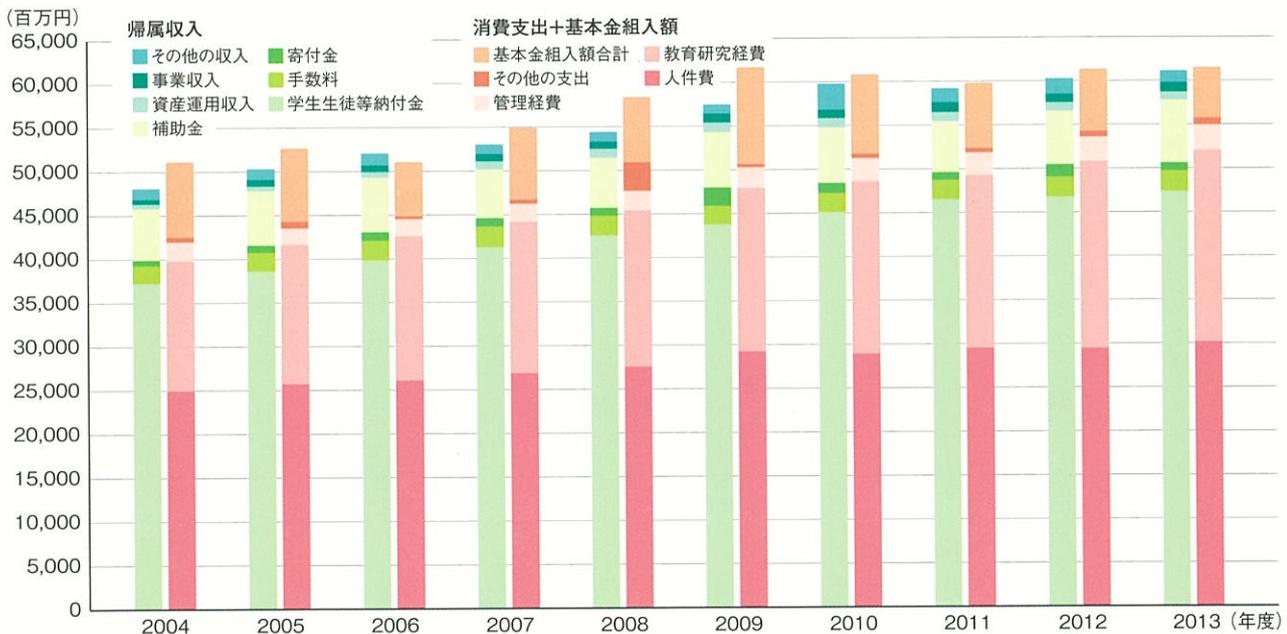


図4 帰属収入の伸び率

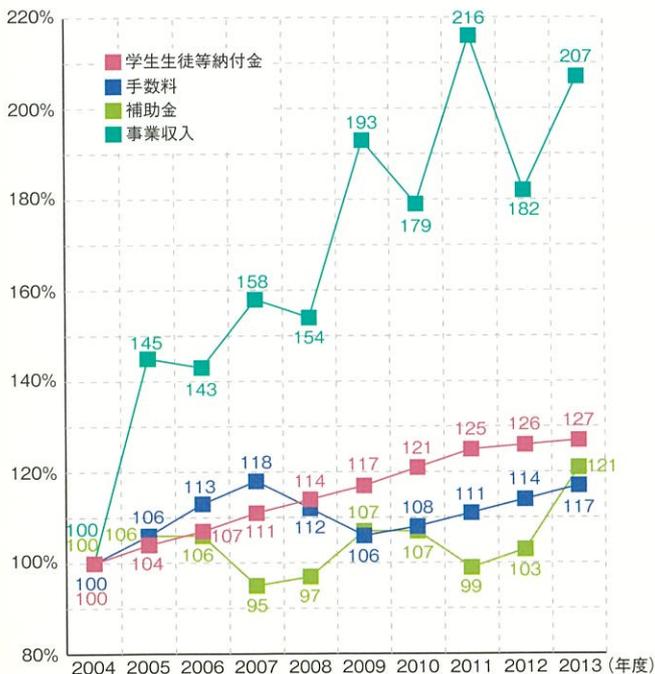
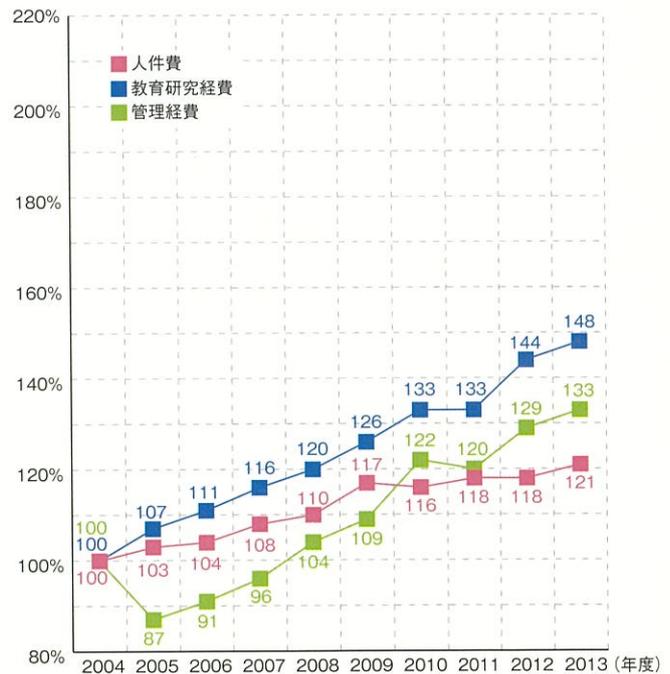


図5 消費支出の伸び率



事業別決算

表3 2013(平成25)年度事業別決算書

(単位:百万円)

事業費項目	合計	内訳		構成比
		消費支出にかかる金額	基本金組入にかかる金額	
人件費	30,213	30,213		48.2%
事業費				
教育研究費	9,929	8,285	1,644	15.8%
学生生徒経費	1,801	1,794	7	2.9%
施設設備整備充実費	1,470	902	568	2.3%
維持運営費	4,083	3,985	98	6.5%
一般管理費	2,284	2,243	41	3.6%
建設事業費(建設勘定)	5,276	1,247	4,029	8.4%
法人経費	434	431	3	0.7%
基本金	3,068		3,068	4.9%
財務費	△ 1,890	1,777	△ 3,667	△ 2.9%
減価償却費	6,027	6,027		9.6%
合計	62,695	56,904	5,791	100.0%

学校別明細はファクトブックに掲載しています。

事業費には次の経費を含んでいます。

教育研究費……消費収支計算書の教育研究経費。ただし、下記で計上する事業費及び減価償却費を除く

学生生徒経費……奨学金、課外活動支援費、学寮に係る経費など

施設設備整備充実費……修繕料、整備費など

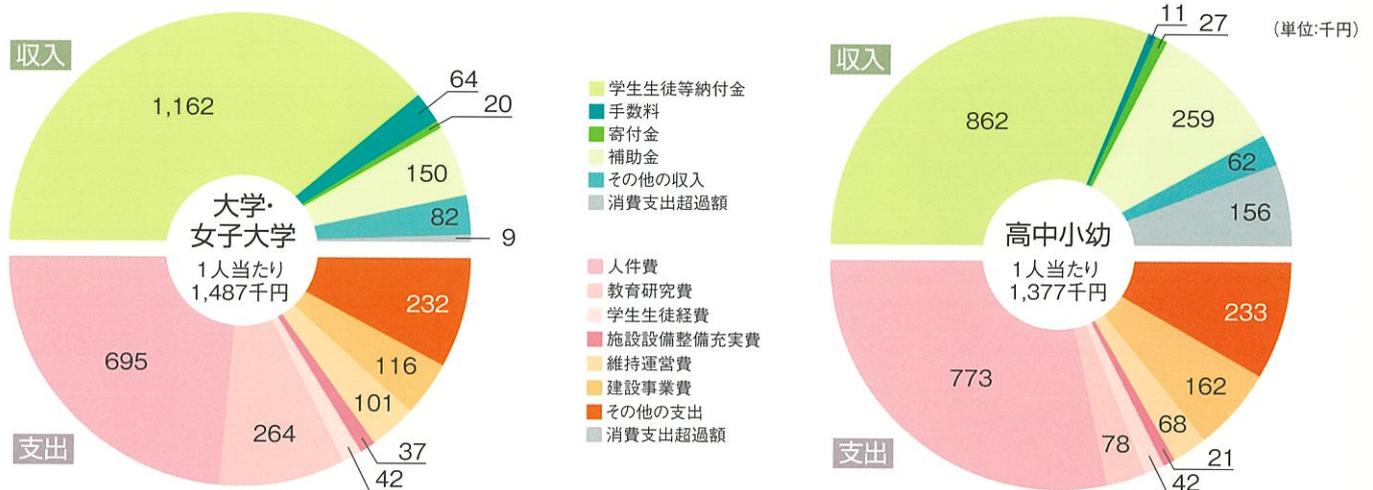
維持運営費……通信費、光熱水費、保守料、清掃委託費、警備委託費用など

一般管理費……消費収支計算書の管理経費。ただし、上記で計上する事業費、減価償却費を除く

基本金……消費収支計算書の第2～4号基本金組入額

財務費……借入金利息、資産処分差額、徴収不能引当金繰入額、現物寄付金、当期除却高、第2号基本金取崩額など

図6 学生・生徒・児童・園児1人当たりの収入・支出



貸借対照表

2013年度法人総合貸借対照表は表4のとおりです。図7は過去10年間の貸借対照表推移をグラフ化したものです。消費収支差額は支出超過であるため、棒グラフの基本金の先端部分に網掛けで表現しており、この部分が資金不足額となります。

(1) 資産の部

固定資産のうち有形固定資産は、教育研究活動の拠点となる土地、建物、構築物や機器備品の整備充実により増加してきました。04年度は女子大学憩水館、05年度は大学臨光館、小学校明心館、07年度は大学医心館、磐上館、08年度は大学継志館の取得、女子大学純正館、中学校・高等学校桑志館、恵潤館、09年度は大学多々羅キャンパスの取得、中学校・高等学校立志館、10年度は、大学烏丸キャンパ

スの取得、国際学院抱志館、香里中学校・高等学校新特別教室棟、12年度は、大学良心館、志高館、香里中学校・高等学校尚志館、香友館建設などによるものです。

その他の固定資産は、第2号基本金の引当資産、第3号引当資産、減価償却の引当資産を増額しました。この結果、本年度末の固定資産総額は前年度比1.5%増の2.131億6,100万円となりました。

流動資産は、現金預金、未収入金などで、本年度末は前年度比6.8%増の282億1,900万円です。

(2) 負債・基本金・消費収支差額の部

固定負債のうち長期借入金は、計画的な返済により着実に減少を続け、残高は10年前の8分の1程度となりました。退職給与引当金は、期末要支給額の100%を引き当てています。

流動負債は新入生学費の前受金が大部分を占めています。

基本金は、第1号基本金が自己資金による固定資産の取得と借入金の返済などで前年度比1.4%増の2,085億3,600万円、第2号基本金は計画に基づく組入と建設事業への充当により前年度比39.5%増の82億1,300万円、第3号基本金は前年度比1.7%増の193億5,800万円、第4号基本金は前年度比5.1%増の39億1,700万円となっています。

消費収支差額は、帰属収入が堅調に推移している一方で、大規模な建設事業を自己資金で賄っているため消費支出超過となり、この結果翌年度に繰り越す消費支出超過額は275億5,200万円となりました。

また、減価償却額累計額は742億2,800万円となっています。

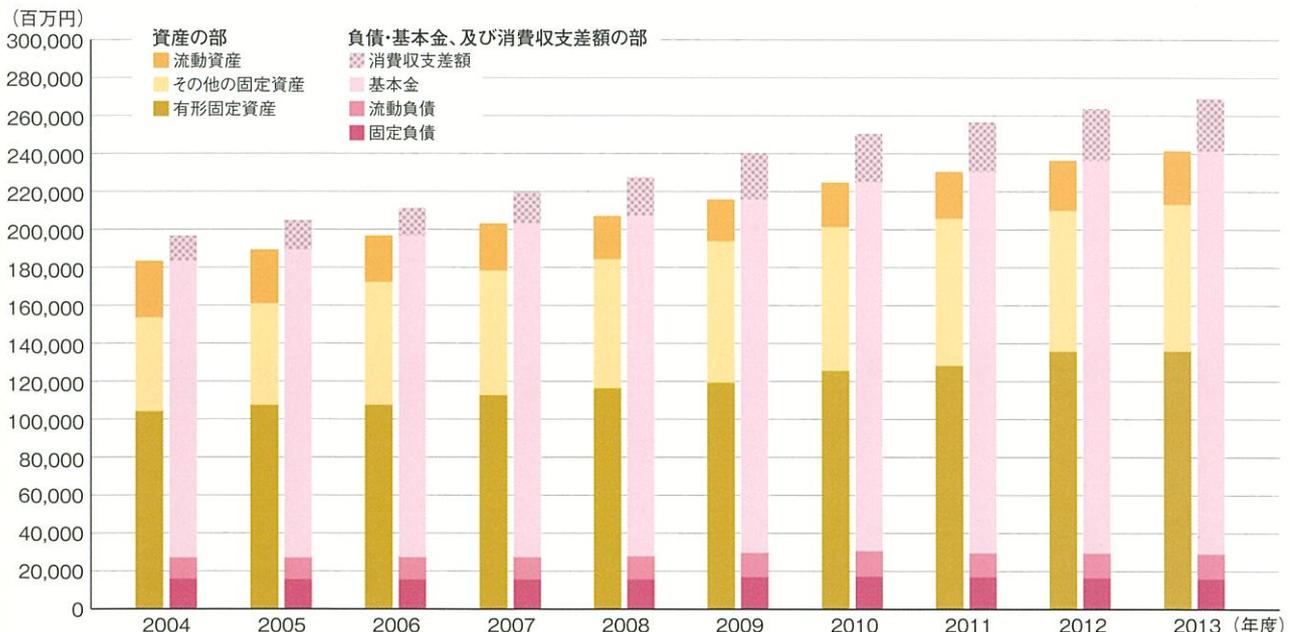
表4 法人総合貸借対照表

2014(平成26)年 3月31日現在(単位:百万円)

資産の部				負債・基本金及び消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
[固定資産]	213,161	209,969	3,192	[固定負債]	15,797	16,239	△ 442
(有形固定資産)	135,796	135,724	72	長期借入金	473	760	△ 287
土地	18,751	18,751	0	未払金	180	160	20
建物	80,943	81,699	△ 756	退職給与引当金	15,103	15,269	△ 166
構築物	4,798	4,691	107	教職員年金引当金	22	31	△ 9
教育研究用機器備品	12,947	12,811	136	受入保証金	19	19	0
その他の機器備品	190	202	△ 12	[流動負債]	13,111	13,082	29
図書	16,523	16,190	333	短期借入金	287	349	△ 62
車輛・舟艇・航空機	10	15	△ 5	未払金	1,395	1,306	89
建設仮勘定	1,634	1,365	269	前受金	10,156	10,143	13
(その他の固定資産)	77,365	74,245	3,120	預り金	1,121	1,130	△ 9
ソフトウェア	233	285	△ 52	修学旅行費預り金	149	151	△ 2
ソフトウェア仮勘定	10	0	10	仮受金	3	3	0
借地権	208	208	0	負債の部合計	28,908	29,321	△ 413
電話加入権	20	20	0	[第1号基本金]	208,536	205,588	2,948
施設利用権	21	21	0	[第2号基本金]	8,213	5,888	2,325
有価証券	20	20	0	[第3号基本金]	19,358	19,030	328
長期貸付金	5,051	5,408	△ 357	[第4号基本金]	3,917	3,727	190
第2号基本金引当資産	8,213	5,888	2,325	基本金の部合計	240,024	234,233	5,791
第3号基本金引当資産	19,358	19,030	328	[翌年度繰越消費支出超過額]	△ 27,552	△ 27,170	△ 382
退職給与引当資産	15,103	15,269	△ 166	前年度繰越消費支出超過額	△ 27,170	△ 26,099	△ 1,071
教職員年金引当資産	22	31	△ 9	当年度消費収支差額	△ 382	△ 1,071	689
減価償却引当資産	29,000	28,000	1,000	消費収支差額の部合計	△ 27,552	△ 27,170	△ 382
支払保証金	105	64	41	負債・基本金および消費収支差額の部合計	241,380	236,384	4,996
出資金	1	1	0	減価償却額の累計額の合計額	74,228		
[流動資産]	28,219	26,415	1,804	基本金未組入額	1,104		
現金預金	25,845	24,182	1,663				
未収入金	1,820	1,749	71				
短期貸付金	0	0	0				
前払金	289	215	74				
仮払金	116	118	△ 2				
修学旅行費預り資産	149	151	△ 2				
資産の部合計	241,380	236,384	4,996				

ファクトブックに、円単位で表示した貸借対照表および学校法人会計基準に基づく注記事項を掲載しています。

図7 貸借対照表の推移



財務比率

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年変化の追跡や全国平均との比較を行い、財政状況の分析に利用するものです。表5、6は本学と全国平均の比較、図8、9は本学の過去10年間の推移グラフです。

消費収支計算書関係比率について本学の指標値を全国平均と比較すると、学生生徒等納付金比率は高く、寄付金、補助金比率は低めで、学費への依存度が比較的高い収入構造となっています。経費に関する比率では、低い方がよいとされる人件費比率と管理経費比率はともに全国平均内にあります。また教育研究経費比率は教育研究の充実度を表し、高いほう

が望ましいとされており、本学は全国平均を上回っています。

学校法人は帰属収支差額の中から基本金組入額を賄うため、帰属収支差額比率は10%以上が望ましいとされています。本学の帰属収支差額比率は、資本的支出から経費支出への増加により、本年度は一過的に8.8%となっていますが、08年度を除き、04年度以降11%～13%台で推移しています。

貸借対照表関係比率では、固定比率や固定長期適合率で土地、施設設備などの固定資産が自己資金で賄えているかどうかを見ます。負債比率や総負債比率は、自己資金に対する負債、すなわち他人資

金の割合です。また、基本金比率は、基本金組入の対象となる資産に対して組入れ済みの基本金がどれだけあるかを示すものです。

流動比率は、各種引当資産の充実と資金運用の効率化を図り、215.2%となっています。また、新規建設事業は借入金に依存せず自己資金で行っており、基本金比率も着実に増加しています。

教学組織の新設、施設設備の充実など活発な教学改革の影響から収支バランスが一時的に崩れる年度がありますが、自己資金の安定的確保、固定資産及び基本金の充実、借入金等外部負債の減少の状況が指標値に表れています。

表5 消費収支計算書関係比率

比率	算式(×100)	評価指標	本学	全国平均
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	77.5	73.4
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↑	1.5	2.0
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↑	11.7	12.6
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↓	49.4	52.8
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↑	35.8	31.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↓	4.7	9.2
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↑	8.8	4.8

表6 貸借対照表関係比率

比率	算式(×100)	評価指標	本学	全国平均
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↓	100.3	99.5
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↓	93.4	91.9
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↑	215.2	237.1
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↓	13.6	14.7
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↓	12.0	12.8
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	↑	99.5	97.1

評価指標 ↑高い値が良い ↓低い値が良い | 全国平均:「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2011年度数値

図8 消費収支計算書関係比率の推移

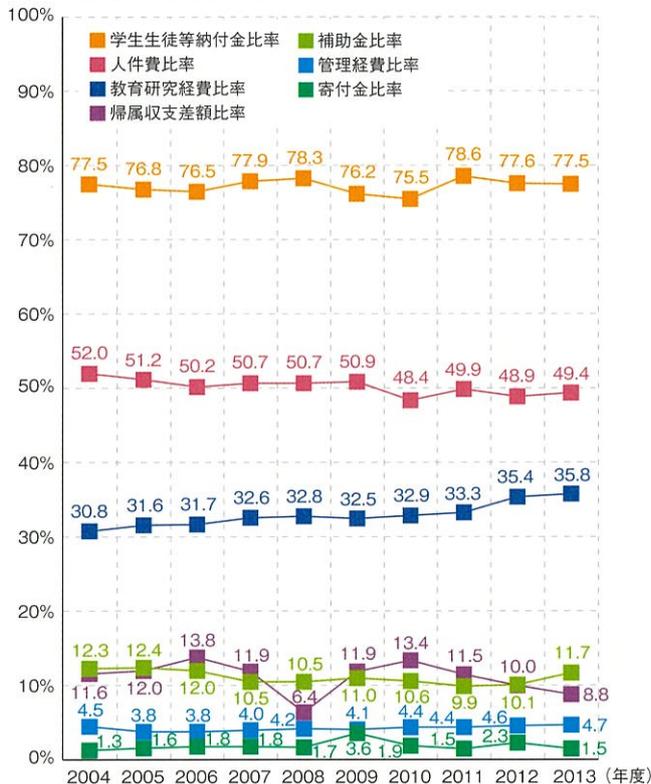
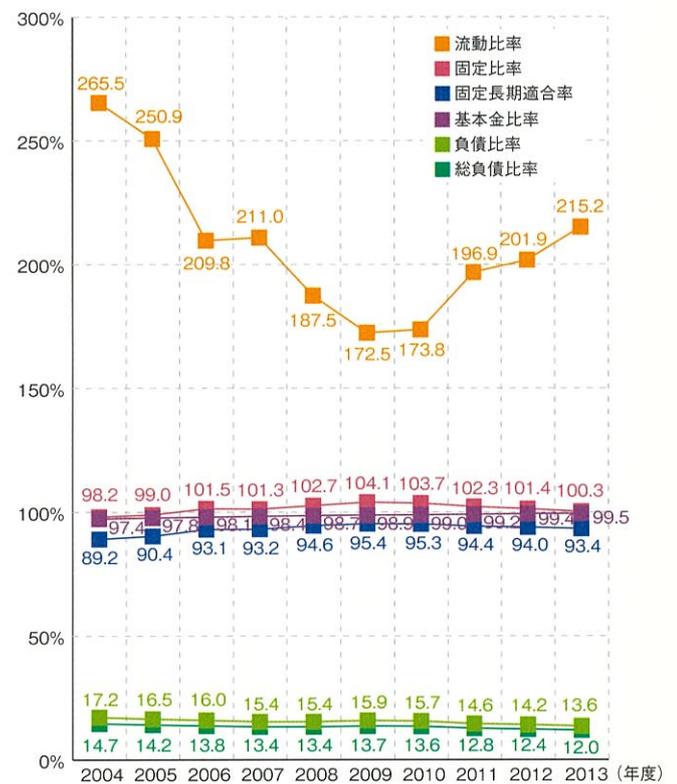


図9 貸借対照表関係比率の推移



■ 学校別の状況

各学校の収支状況を表7「学校別収支計算書」によって説明します。

大学では、学生生徒等納付金、入学検定料等手数料、寄付金、補助金、事業収入、雑収入等の増収などにより、帰属収入合計は417億1,400万円と前年度に比べて1.3%増となりました。基本金組入額は、今出川校地耐震改修工事、京田辺校地磐上館増築工事、事務室配置変更工事などの事業を実施し、将来の施設整備のための第2号基本金とあわせて31億5,400万円となりました。

消費支出は、教育研究費及び管理経費は、建設事業において、予算では施設関係支出などに資本的支出として一括計上していたうち、経費支出となったことに伴う増加により、総額では予算額を上回りました。また、資産処分差額においては、欠本図書館の除却や固定資産に係る減価償却未償却額等の増額で、合計では383億6,800万円と前年度に比べて1.9%増となり、この結果、1億9,200万円の消費収入超過となりました。

女子大学では、学生生徒等納付金、手

数料、寄付金、補助金などの増収により、帰属収入合計は107億3,100万円と前年度に比べて1.3%増となりました。基本金組入額は、今出川キャンパス整備事業、新学部関連棟等建設工事を実施し、第2号基本金とあわせて12億1,000万円となりました。

消費支出は、人件費、教育研究経費等の予算執行残により、合計では92億7,200万円となり、前年度と比べ9.5%増となり、この結果、2億4,900万円の消費収入超過となりました。

各中学校・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園では、学生生徒等納付金において、香里中学校・高等学校、国際学院では、前年度に比べて増収となり、他の学校でも前年度並みの収入を確保しています。補助金は、国際中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際学院、幼稚園では、予算見込み額から増収になりました。基本金組入額は、国際中学校・高等学校で、校舎増築事業などを実施し7億500万円、第2号基本金で、中学校・高等学校2億円、女子中学校・高等学校1億5,000万円を組入れてい

ます。

小学校は、開校以来、支出を収入で賄うことができない収支の不均衡が続きましたが、開校8年目で収支不均衡の解消が進んでいます。

法人部勘定では、各学校の建設事業資金の法人内での資金調達額および償還額を繰入金と繰出金に計上しています。

特別会計では、年金会計、住宅会計を計上しています。

収支計算書について

この計算書は学校法人会計基準による消費収支内訳表の体裁をとりつつも、部門間のみなし配分を避け、内部取引の収支を明らかにする目的で、計上方法を一部変更しています。

すわなち、学校法人部門は大学に、新設学部等の開設前の収支は、それぞれの設置校に含めています。各中学校・高等学校は、中学校、高等学校の合計額で、大学附属の小学校、国際学院も独立した部門として表示しています。また、内部取引の各校認識額については繰入金・繰出金に、法人に係る経費の各校分担額は分担金(支出)に計上しています。

表7 2013(平成25)年度 学校別収支計算書

(単位：百万円)

	大学	女子大学	中高	国際中高	香里中高	女子中高	小学校	国際学院	幼稚園	法人部勘定	特別会計	合計
学生生徒等納付金	31,922	9,218	1,771	993	1,236	1,306	536	382	49			47,413
手数料	1,878	375	16	14	24	16	3	2	1			2,329
寄付金	580	126	46	40	9	48	32	8	14			903
補助金	4,807	490	527	279	516	390	99	50	22			7,180
資産運用収入	616	210	14	7	13	16	7	1	2		30	916
資産売却差額	8											8
事業収入	851	75		69			63	13				1,071
雑収入	907	221	47	50	52	62	5		4			1,348
繰出金	26	16	8	577	10	107	6	1		305		1,056
分担金	119											119
帰属収入合計	41,714	10,731	2,429	2,029	1,860	1,945	751	457	92	305	30	62,343
基本金組入額合計	△ 3,154	△ 1,210	△ 226	△ 705	△ 48	△ 420	△ 12	△ 14	△ 2			△ 5,791
消費収入の部合計	38,560	9,521	2,203	1,324	1,812	1,525	739	443	90	305	30	56,552
人件費	19,890	4,697	1,422	965	1,159	1,088	437	500	55			30,213
教育研究経費	16,333	3,290	700	273	540	285	259	210	20			21,910
管理経費	1,713	864	70	87	49	29	13	56	3			2,884
借入金等利息	7		1	6	4	1						19
資産処分差額	239	326	1	1	2							569
繰入金	33	2	177	1	134	8	1			670	30	1,056
徴収不能引当金繰入額	144	6	5									155
徴収不能額	9											9
分担金		87	10	6	8	8						119
消費支出の部合計	38,368	9,272	2,386	1,339	1,896	1,419	710	766	78	670	30	56,934
当年度消費収支差額	192	249	△ 183	△ 15	△ 84	106	29	△ 323	12	△ 365	0	△ 382

2014年度の事業計画

■教学組織

大学では、ビジネス研究科に、グローバルMBAコースを発展・充実させた「ビジネス研究科グローバル経営研究専攻修士課程」を開設します。脳科学研究科は、京田辺キャンパスに拠点を置き、さらなる研究力の向上を目指します。

女子大学では、高度な知識と技術に基づく看護実践能力を備え、チーム医療に参画できる質の高い看護師を養成する「看護学部」の2015年度開設準備を進めます。

国際学院初等部では、開校4年目の新入生を迎え6学年が揃います。

■教育研究

大学では、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」を補助事業期間終了後も継続し、引き続き留学生の受け入れや送り出しの促進に取り組みます。「グローバル人材育成推進事業」についても、学部の協力を得ながら引き続き推進します。また、「博士課程教育リーディングプログラム」のさらなる展開とあわせ、世界で活躍するリーダーの教育を実践していきます。教育環境面では、教育研究支援及びネットワークに関わるシステムの大規模リプレイスにより改善を図ります。

女子大学では、英語英文学科のカリキュラム改正や、看護学部で取得できる養護教諭一種免許状課程認定申請を行います。また、海外留学準備セミナーや英語の習得を目指す課外講座を充実させ、 Semester 留学制度の募集人数を拡大します。教室等のAVシステムは、リプレイ

スにより情報環境の整備充実を図ります。

各中学校・高等学校では、国際感覚に富み国際社会に貢献できる生徒の育成を目的とした立石ファンドを活用し、特色ある国際主義教育の取り組みを継続します。国際中学校・高等学校では、スーパーグローバルハイスクールの取り組みを進め、国際バカロレア教育の導入を目指した調査・研究を行います。また、CALLシステムを導入して、外国語教育のさらなる充実を図ります。女子中学校・高等学校では、静和館AVシステムの更新を行います。

国際学院では、初等部6年生を対象に、アーモスト大学への修学旅行を初めて実施します。

■学生生徒支援・施設設備整備

大学では、アジア・環太平洋地域を中心とした国際大会である「APSSA2014」の会場校として運営を行います。2校地間無料シャトルバスは、利用者の多い時間帯に増便し、女子大学の学生も乗車可能とします。施設設備面では、マルチメディアラウンジシステムのリプレイス、ラーニング・コモンズ受付管理システムの改良、PC貸出用自動ロッカーシステムの増設など、さらなる充実を図ります。

女子大学では、創立者夫妻のゆかりの地を訪ねる研修旅行について、会津若松、安中に加えて函館でも実施します。

また各高等学校において、生徒が安心して勉学に専念できる修学支援の奨学金制度を継続します。国際学院では、生徒数の増加に伴い、スクールバスを増便します。

■建設事業

大学では、神学館の耐震改修や、京田辺校地において、脳科学研究科を置く複合的研究施設ならびにキリスト教主義教育を象徴する宗教教育施設を建設します。また、知真館1、2号館のトイレ改修や体育施設の夜間照明設置工事も行います。

女子大学では、今出川キャンパス整備を行うほか、京田辺校地において、看護学部開設に向け、新棟を建設します。

国際中学校・高等学校では、国際学院初等部卒業生受け入れに向け施設改修や校舎増築、女子中学校・高等学校では、新校舎建設や新生館耐震改修工事、小学校ではグラウンド改良整備工事を行います。

■その他の事業

大学では、首都圏で発信する講座の実施やリブランディング事業、駅看板や新聞雑誌による情報発信など広報戦略の強化に努めます。また、新情報システム整備計画に従い、教務システム及び財務システム構築、就職システム更新を実施します。

女子大学では、大学基準協会の認証評価に係る実地調査に対応するほか、薬学教育評価機構に認証評価申請を行い、評価結果を諸活動の改善に活かします。

香里中学校・高等学校では、ホームページを全面リニューアルし、積極的な情報発信に努めます。

法人事業として、建学の精神の更なる浸透を図りつつ、新島襄海外渡航150年記念事業を実施します。

表8 2014(平成26)年度以降の収支見通し

(単位：百万円)

収入の部	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
学生生徒等納付金	46,983	47,250	47,616	47,637
手数料	2,166	2,167	2,167	2,167
寄付金	386	471	471	471
補助金	5,695	6,562	6,613	6,349
資産運用収入	704	811	840	840
事業収入	579	849	850	850
雑収入	1,024	675	588	1,089
帰属収入合計	57,537	58,785	59,145	59,403
基本金組入額合計	△ 6,289	△ 5,979	△ 4,115	△ 3,230
消費収入の部合計	51,248	52,806	55,030	56,173
人件費	30,496	30,674	30,486	31,140
教育研究経費	22,761	21,550	21,592	21,582
管理経費	2,880	2,730	2,731	2,728
借入金等利息	14	9	6	3
資産処分差額	7	0	338	0
徴収不能引当金繰入額	133	153	153	153
予備費	353	351	351	351
消費支出の部合計	56,644	55,467	55,657	55,957
基本金取崩額	0	0	227	0
当年度消費収支差額	△ 5,396	△ 2,661	△ 400	216

法人の概要

理事、監事、評議員

理事(○印 理事長)

大谷 實(総長)
 村田 晃嗣(大学長)
 加賀 裕郎(女子大学長)
 宮本 義信 ○水谷 誠 (学校長等互選)
 濱 直樹 宮庄 哲夫 中村 友二 西山 啓一
 西澤 由隆 余田由香利 横井 和彦 (評議員互選)
 井上 礼之 西村 公雄 立石 義雄 (学識経験者)

監事

長谷川正治 畑 肇 岩山太次郎

評議員(○印 議長)

○雨谷 昭弘 今川 一彦 伊東 徳治 松尾 博文
 宮崎 與也 宮庄 哲夫 中村 信博 西川 真司
 西澤 由隆 瀬川 貴之 園田 毅 鋤柄 俊夫
 恒岡 清 鶴飼 哲夫 横井 和彦 (教職員互選)
 福永 晃三 船越 照平 濱 直樹 木村 健二
 南 美樹 中村 公紀 中村 友二 坂 光司
 上野 道雄 山下 泰生 柳 友 繁彌 (校友会選定)
 阿部登茂子 村田 良子 西邨恵美子 余田由香利 (同窓会選定)
 浅香 正 藤倉皓一郎 兄玉 實英 三浦 竹泉
 望月 修治 西山 啓一 大橋 寛治 (理事会選定)

2014年3月現在

沿革

1875 (明治 8) 年 11月29日 官許「同志社英学校」を開校
 新島襄初代社長に就任
 1876 (明治 9) 年 9月 今出川校地(相国寺門前の薩摩藩邸跡)に
 校舎、食堂を建て寺町から移る
 10月 京都御苑内の旧柳原邸
 (現・京都迎賓館の一部)で女子塾を開校
 1877 (明治10) 年 4月 同志社分校女紅場を開校
 9月 女紅場を同志社女学校と改称
 1883 (明治16) 年 2月 「同志社社則」を制定
 1884 (明治17) 年 4月 新島、2度目の海外旅行に出発(翌年12月帰国)
 9月 同志社最初の煉瓦建築、彰栄館竣工
 (国の重要文化財)
 1886 (明治19) 年 6月 新礼拝堂(チャペル)竣工(国の重要文化財)
 1887 (明治20) 年 11月 書籍館(現・有終館)開館(国の重要文化財)
 同志社病院・京都看護婦学校の開院、開校式
 1888 (明治21) 年 11月 「同志社大学設立の旨意」を
 全国の主要雑誌・新聞に発表
 1890 (明治23) 年 1月23日 新島、静養先の神奈川県大磯にて永眠(46歳)
 7月 アメリカの実業家J.N.ハリスの10万ドルの
 寄付によるハリス理化学館竣工
 (国の重要文化財)
 9月 ハリス理化学校開校
 1891 (明治24) 年 9月 政法学校開校
 1892 (明治25) 年 6月 [女学校] 本科を普通科、高等科を
 専門科(師範科、文学科、神学科)に改める
 1893 (明治26) 年 10月 同志社徽章(校章)を制定
 1894 (明治27) 年 1月 神学館(現・クラーク記念館)
 開館式(国の重要文化財)
 1896 (明治29) 年 4月 普通学校を同志社高等普通学校と改称し、
 新たに同志社尋常中学校を開校
 1897 (明治30) 年 3月 M.F.デントン、出町幼稚園
 (現・同志社幼稚園)を開園
 1900 (明治33) 年 出町幼稚園を今出川幼稚園と改称
 1901 (明治34) 年 3月 [女学校] 普通科を高等普通部と改め、
 新たに専門学部を設置
 1904 (明治37) 年 4月 専門学校令による神学校と専門学校を開校
 政法学校廃校
 1906 (明治39) 年 4月 同志社病院・京都看護婦学校閉鎖
 ハリス理化学校廃校
 1908 (明治41) 年 同志社カレッジソングができる
 1912 (明治45) 年 4月 専門学校令による同志社大学
 (予科、神学部、政治経済学部、英文科)、
 女学校専門学部(英文科、家政科)を開校
 1920 (大正 9) 年 4月 大学令による同志社大学
 (文学部、法学部、大学院、予科)の開校
 1922 (大正11) 年 4月 専門学校令による大学を専門学校
 (神学部、英語師範部、高等商業部、
 政治経済部)として再編成
 1928 (昭和 3) 年 1月 [女学校] 普通学部を女学校高等女学部と改称
 1929 (昭和 4) 年 4月 [専門学校] 高等商業部を岩倉に移転
 1930 (昭和 5) 年 6月 [女学校] 専門学部を女子専門学校と改称
 9月 [女学校] 普通学部を高等女学部と改称
 12月 [専門学校] 高等商業部を高等商業学校と改称
 1943 (昭和18) 年 4月 中学校令による中学校開校
 1944 (昭和19) 年 4月 工業専門学校
 (電気通信科、機械科、化学工業科)開校
 1947 (昭和22) 年 4月 新学制により新制中学校、女子中学校発足
 1948 (昭和23) 年 4月 新制大学(神学部、文学部、法学部、経済学部)
 新制高等学校、新制定時商業高等学校、
 新制女子高等学校を設置
 1949 (昭和24) 年 4月 商学部と工学部を新設し、大学は六学部となる
 女子大学(学芸学部)開校
 高等学校が岩倉校地へ移転
 1950 (昭和25) 年 4月 [大学] 大学院修士課程
 (神・文・法・経済・商各研究科)を開校

1950 (昭和25) 年 4月 [大学] 短期大学部(夜間2年制)
 (英語・商経・工各学科)開設
 1951 (昭和26) 年 3月 [大学] 教養学部解散(1948年4月発足)
 9月 香里学園を合併し、香里中学校、
 同高等学校を開校
 1953 (昭和28) 年 4月 [大学] 大学院博士課程開設
 1954 (昭和29) 年 4月 [大学] 短期大学部を発展的に解消、大学2部(4年制)
 (文・法・経済・商・工各学部)開設
 1955 (昭和30) 年 4月 [大学] 工学研究科修士課程開設
 1967 (昭和42) 年 4月 [女子大学] 文学研究科修士課程開設
 1968 (昭和43) 年 4月 [女子大学] 家政学研究科修士課程開設
 1975 (昭和50) 年 創立100周年を迎え、記念事業を行う
 4月 [女子大学] 文学研究科博士後期課程開設
 1976 (昭和51) 年 3月 商業高等学校廃校
 1980 (昭和55) 年 4月 国際高等学校開校
 1986 (昭和61) 年 4月 田辺校地(現・京田辺校地)開校
 大学・女子大学の授業開始
 [女子大学] 短期大学部開設
 1988 (昭和63) 年 4月 国際中学校開校
 1989 (平成元) 年 4月 [女子大学] 学芸学部を日本語日本文学科開設
 1991 (平成 3) 年 4月 [大学] アメリカ研究科開設
 1994 (平成 6) 年 4月 [大学] 工学部、及び工学研究科、
 理工学研究所を田辺校地
 (現・京田辺校地)に統合移転
 1995 (平成 7) 年 4月 [大学] 総合政策科学研究科開設
 1997 (平成 9) 年 4月 [大学] 昼夜開講制を実施
 1999 (平成11) 年 4月 [大学] 留学生別科開設
 2000 (平成12) 年 創立125周年を迎え記念事業を行う
 4月 [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止
 2002 (平成14) 年 4月 [女子大学] 学芸学部を情報メディア学科開設
 [香里中学] 共学化
 2004 (平成16) 年 4月 [大学] 政策学部開設
 工学部に情報システムデザイン学科、
 環境システム学科開設
 司法研究科(法科大学院)開設
 ビジネス研究科(ビジネススクール)開設
 [女子大学] 現代社会学部に
 現代こども学科開設
 国際社会システム研究科開設
 2005 (平成17) 年 創立130周年を迎え記念事業を行う
 4月 [大学] 文学部・文学研究科を再編して
 社会学部・社会学研究科開設
 文化情報学部開設
 [女子大学] 薬学部開設
 同志社小学校開校
 2006 (平成18) 年 4月 [大学] 文化情報学研究科開設
 2007 (平成19) 年 4月 [女子大学] 学芸学部を国際教養学科開設
 2008 (平成20) 年 4月 [大学] 生命医科学部開設、スポーツ健康科学
 部開設、工学部を再編し理工学部開設、
 理工学部に数理システム学科開設、
 生命医科学研究科開設
 2009 (平成21) 年 4月 [大学] 心理学部・心理学研究科開設
 [女子大学] 表象文化学部開設
 2010 (平成22) 年 創立135周年を迎え記念事業を行う
 4月 [大学] スポーツ健康科学研究科開設、
 グローバル・スタディーズ研究科開設
 [中高] 中学校・高等学校統合
 2011 (平成23) 年 4月 [大学] グローバル・コミュニケーション学部開設
 同志社国際学院開校
 2012 (平成24) 年 4月 [大学] 脳科学研究科開設
 工学研究科を理工学研究科と改称
 [女子大学] 薬学研究科開設
 2013 (平成25) 年 4月 [大学] グローバル地域文化学部開設
 [女子大学] 音楽専攻科開設

2014年3月現在